

記 録

文書番号	SCJ第26期-080227-26030200-096
委員会等名	日本学術会議 第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会
標題	Gender Summit フォローアップのためのロードマップ策定ワークショップ 実施報告書
作成日	令和8年（2026年）2月27日

※ 本資料は、日本学術会議会則第二条に定める意思の表出ではない。掲載されたデータ等には、確認を要するものが含まれる可能性がある。

この記録は、第26期日本学術会議第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会が主催したワークショップの実施内容および成果をとりまとめ、記録として公表するものである。

日本学術会議第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会

委員長	玉田 薫	九州大学 主幹教授・副学長	第三部会員
副委員長	堀 利栄	愛媛大学大学院理工学研究科教授	第三部会員
幹事	中野 裕美	豊橋技術科学大学シニア研究員／名誉教授／長岡技術科学大学学長アドバイザー／客員教授	連携会員
幹事	中村 卓司	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所教授	第三部会員
	伊藤 由佳理	東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構教授	第三部会員
	大場 みち子	京都橘大学工学部情報工学科教授	第三部会員
	佐々木 葉	早稲田大学理工学術院教授	第三部会員
	大島 まり	東京大学大学院情報学環教授	連携会員
	川口 慎介	国立研究開発法人海洋研究開発機構地球環境部門上席研究員	連携会員
	斎藤 毅	東京大学大学院数理科学研究科教授	連携会員
	須山 章子	東芝エネルギーシステムズ株式会社エネルギーシステム技術開発センター技術主査	連携会員
	関根 千津		連携会員
	千住 智信	琉球大学工学部教授	連携会員
	野尻 美保子	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所教授	連携会員
	渡辺 美代子	日本大学常務理事・特定非営利活動法人ウッドデッキ代表理事	連携会員

Gender Summit フォローアップのための ロードマップ策定ワークショップ 実施報告書

1. はじめに

本報告書は、Gender Summit（以下、GS）フォローアップの一環として、日本学術会議第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会が主催した「Gender Summit フォローアップのためのロードマップ策定ワークショップ」の実施内容および成果を取りまとめたものである。

本ワークショップは、2017年に日本で開催されたジェンダーサミット 10 (GS10) において示された課題と提言¹⁾を踏まえ、2017年以降の進捗を確認するとともに、今後10年間を見据えた新たな行動ロードマップを策定し、日本からの提案として国際的なGender Summit ロードマップ 2.0の形成に貢献することを目的として実施された。

2. 開催概要

- 名称：Gender Summit フォローアップのためのロードマップ策定ワークショップ
- 開催日時：2025年11月5日
- 開催形態：ハイブリッド開催
- 開催場所：日本学術会議 6C1 会議室（ほか）
- 主催：日本学術会議 第三部 理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会
- 総合ファシリテーター：渡辺美代子、玉田薫
- 参加者：日本学術会議第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会委員（伊藤 由佳理、大場 みち子、玉田 薫、中村 卓司、堀 利栄、斎藤 毅、須山 章子、関根 千津、中野 裕美、渡辺 美代子、川口慎介（書面参加））
参考人 Elizabeth Oda（Women in Science Japan）、井野瀬 久美恵（人間文化研究機構）
説明人 河野銀子（日本学術会議連携会員、九州大学教授）

3. 開催背景および目的

Gender Summit は、2011年に欧州委員会主導のもと開始された、科学技術とジェンダーの関係を国際的に議論する枠組みであり、2025年までに世界各地で25回開催されてきた。米国では2013年に行動ロードマップ 1.0が策定され、

2024年以降は今後10年を対象としたロードマップ2.0に向けた国際的な議論が進められている。

こうした動向を受け、GS主催者から各国におけるフォローアップ型ワークショップの実施が提案され、日本においては日本学術会議第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会がその役割を担うこととなった。本ワークショップは、GS10において理工学分野で示された課題を基点とし、日本における進捗状況を確認するとともに、今後10年間に必要な行動を具体化し、国際ロードマップに資する知見を提供することを目的として開催された。

4. ワークショップの構成および方法

本ワークショップは、参加型形式の1日イベントとして実施された。参加者はテーマ別に3班に分かれ、各班にファシリテーターおよび記録係を配置した。

第一部では、GS10で提示された提言を対象に、DAKIメソッド（Drop削除・Add追加・Keep維持・Improve改善）を用いて評価を行い、進捗確認および課題整理を実施した。

第二部では、今後10年間を見据え、ロードマップ2.0に盛り込むべき目標および具体的アクションについて全体討議を行った。

5. テーマ別班構成

- 第1班：理工系女子学生・女性研究者を増やす取り組みと活躍促進
- 第2班：アジアの視点を重視したジェンダー平等
- 第3班：ジェンダーを要因として考慮する科学技術の進展

各班には、委員および有識者が参加し、専門的知見を踏まえた討議が行われた。

6. 第1班における新たなロードマップ案

「理工系女子学生・女性研究者を増やす取り組みと活躍促進」

第1班では、理工系分野における女性人材の裾野拡大と、研究・教育・キャリア形成の各段階における持続的な活躍促進を軸に、新たなロードマップの検討を行った。議論では、これまで実施されてきた女子学生支援やポジティブアクションが一定の成果を上げている一方で、分野や組織による偏在、制度の形式化、長期的視点の不足といった課題が指摘された。

新たなロードマップでは、単なる人数増加を目標とするのではなく、「女性が能力を発揮し続けられる環境の構築」を中心概念として位置づける必要性が共有された。具体的には、初等中等教育段階における理工系進路選択への心理的・

社会的障壁の低減、大学・大学院における女子学生の孤立防止とロールモデルの可視化、研究者段階における評価制度や研究費配分の在り方の見直しが重要な要素として整理された。

また、女性研究者本人への支援にとどまらず、指導教員や研究室運営者、大学執行部といった周囲のステークホルダーに対する意識改革と制度的責任を明確化することが、新たなロードマップの柱として示された。今後 10 年間においては、短期的施策の積み上げではなく、教育・研究・雇用を貫く一貫した戦略の下で、女性研究者がキャリアの中断や過度な負担を強いられることなく活躍できる仕組みを社会に定着させることが求められる。

7. 第 2 班における新たなロードマップ案 「アジアの視点を重視したジェンダー平等」

第 2 班では、ジェンダー平等をめぐる議論が欧米中心の価値観や指標に依拠してきた現状を踏まえ、アジアの社会・文化・歴史的な文脈を考慮した新たなロードマップの方向性について検討を行った。GS10 で提起された「ジェンダー平等の再定義 (Gender Equality 2.0)」を基盤としつつ、その具体化が十分に進んでいない点が課題として共有された。

新たなロードマップにおいては、女性比率などの単一指標による評価に依存するのではなく、各国・各地域が抱える固有の背景を踏まえた多層的な評価軸を導入する必要性が強調された。特に、アジア地域においては、家族規範、教育制度、労働慣行などが複雑に絡み合っており、ジェンダー課題が可視化されにくいという特徴があることから、質的なデータや現場の声を重視したアプローチが重要であると整理された。

さらに、新たなロードマップでは、女性と女子のみを対象とする従来型の枠組みを超え、男性や男子が直面する課題も含めた包括的なジェンダー理解を進めることが不可欠であるとの認識が共有された。今後 10 年間に向けては、アジア発のジェンダー平等の概念や実践事例を国際社会に積極的に発信し、世界規模の議論に多様な視点を提供することが、日本を含むアジア地域の重要な役割として位置づけられた。

8. 第 3 班における新たなロードマップ案 「ジェンダーを要因として考慮する科学技術の進展」

第 3 班では、科学技術の研究開発プロセスにおいてジェンダーを重要な要因として組み込むことの意義と、その実装に向けた新たなロードマップについて議論を行った。GS10 以降、ジェンダード・イノベーション²⁾ の概念は一定程度

共有されてきたものの、実際の研究現場や政策制度への定着は限定的であることが課題として確認された。

新たなロードマップでは、ジェンダー配慮を倫理的配慮や付加的要素として扱うのではなく、科学的卓越性や研究の質を高めるための中核的要因として位置づける必要性が明確にされた。具体的には、研究課題設定段階からジェンダー差の有無や影響を検討する仕組みの導入、研究評価や審査における視点の更新、工学分野を含む幅広い分野での教育・人材育成の強化が重要な行動項目として整理された。

また、研究者個人の努力に依存するのではなく、研究資金配分機関、大学・研究機関、政策立案機関がそれぞれの立場で責任を持ってジェンダー視点を組み込むことが、今後 10 年間のロードマップの核心であるとされた。科学技術が社会全体に与える悪影響を最小化し、すべての人にとって有益な成果を生み出すためにも、ジェンダーを要因として考慮する研究開発の体系化が不可欠であるとの結論に至った。

9. 全体討議における共通目標とアクション

全体討議では、各班で整理された新たなロードマップ案を踏まえ、今後 10 年間における共通目標と、それを実現するための具体的アクションについて議論を行った。

共通目標として確認されたのは、ジェンダー平等を「数値目標の達成」や「特定集団への配慮」にとどめず、科学技術と社会の持続可能性を高めるための基盤として社会に定着させることである。そのためには、教育・研究・政策・社会実装の各段階を分断せず、一貫した視点で取り組むことが不可欠であるとの認識が共有された。

具体的なアクションとしては、第一に、関係機関（政府機関、地方自治体、大学、民間企業、学協会等）がそれぞれの役割と責任を明確にし、ジェンダー課題を自らの戦略に組み込むことが挙げられた。第二に、国内外のネットワークを活用し、国際会議や国際ワークショップなどさまざまな機会に日本およびアジアの知見や実践を国際社会に継続的に発信することが重要であると整理された。第三に、フォローアップ体制を整備し、ロードマップが一過性の提言に終わることなく、進捗確認と改善を伴うプロセスとして機能させる必要性が強調された。

これらの目標とアクションを着実に実行することにより、日本からの提案が世界規模の Gender Summit ロードマップ 2.0 に実質的に貢献し、科学技術分野におけるジェンダー平等の深化につながることを期待される。

10. おわりに（日本学術会議としての位置づけ）

本ワークショップは、日本学術会議が、科学技術とジェンダーの関係を国際的課題として主体的に捉え、知的貢献を行う取り組みの一環として実施されたものである。本報告書にまとめた新たなロードマップ案は、GS10の成果を継承・発展させるとともに、日本およびアジアの視点を世界規模の Gender Summit ロードマップ 2.0 に反映させるための基礎資料として位置づけられる。

日本学術会議は、今後も関係機関と連携しつつ、本ワークショップで整理された目標およびアクションの実現に向けた議論と検討を継続し、科学技術分野におけるジェンダー平等の深化と社会への定着に貢献していく。

参考文献

- 1) 科学技術振興機構、ジェンダーサミット 10 (GS10) 報告書 2018 年 3 月
<https://www.jst.go.jp/diversity/gender-summit/index.html> (2025 年 11 月参照)
- 2) お茶の水女子大学 HP、ジェンダード・イノベーションとは
<https://genderedinnovations-ochanomizu-univ.jp/what-is-gendered-innovations.html>
(2026 年 2 月参照)

Appendix : English Summary

Summary of the Follow-up Workshop for Developing the Gender Summit Roadmap (Japan)

The Science Council of Japan (SCJ), Division III, Subcommittee on Gender and Diversity in Engineering and Science, organized a follow-up workshop to the Gender Summit (GS) with the aim of contributing to the development of the global Gender Summit Roadmap 2.0.

Building on the outcomes of Gender Summit 10 (GS10), held in Japan in 2017, the workshop reviewed progress made since that time and identified priority actions for the next ten years. The workshop focused on gender-related challenges in science, technology, and engineering, areas that remain central to innovation while still facing persistent gender disparities.

Participants were divided into three thematic groups:

1. increasing the participation and advancement of female students and researchers in science and engineering,
2. promoting gender equality from Asian perspectives, and
3. integrating gender as a key analytical factor in scientific and technological research and innovation.

Using the DAKI methodology (Drop, Add, Keep, Improve), participants assessed previous GS10 recommendations and developed new roadmap elements. Discussions emphasized the importance of moving beyond numerical targets toward creating sustainable systems in which diverse talent can thrive, incorporating gender perspectives into research design and evaluation, and articulating gender equality frameworks that reflect regional, cultural, and social contexts in Asia.

The outcomes of this workshop are positioned as Japan's intellectual contribution to the global Gender Summit Roadmap 2.0. The Science Council of Japan intends to continue engaging with relevant stakeholders domestically and internationally to advance gender equality as a foundation for scientific excellence, innovation, and sustainable societies.

第一部：グループ討議 11:10-15:00

テーマ1 理工系女子学生・女性研究者を増やす取り組みと活躍促進 11:00-14:20

ファシリテーター：堀 利栄 記録係：中野裕美

第一部

*DAKI：Drop削除, Add追加, Keep維持, Improve改善 から抜粋

GS10からの抜粋項目		当日の議論		新たなロードマップの設定(2025)	
短期目標/行動 1-3年	対象ステークホルダー	出席者のコメント	DAKI*	短期目標/行動 1-3年	対象ステークホルダー
<p>中等教育における女子学生の文理選択の健全化。 Promoting the right/healthy selection of literature and science courses for female students in junior high school.</p>	政府機関、地方自治体、学協会、大学	<p>学協会の協力で実施している女子中高生夏の学校 (https://natsugaku.jp/)、大学による女子学生進路選択支援事業、JSTの支援事業などが継続的に実施されているが、支援事業の成果がどの程度出ているのか検証が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学では支援事業のための時間が取れないジレンマがある。 ・企業やNPOの事業は効果的。企業のロールモデルは効果的である。 ・進路選択支援の取組は、特に中学生に対して保護者と一緒に実施するのが効果的。ネットワークを広げて行うのがよい。 ・女子学生向けのイベントには男性教員も積極的に関わらねばならない。 ・日本の高校の文理選択方式での受験対策が分野選択の健全化を阻害している可能性がある（アメリカではACT共通テストと小論文等で大学に進学できるので、分野の選択は自由） <p>While the ACT tests science capabilities explicitly, the SAT is the more popular test for college admissions in America and does not directly test science capabilities.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Research suggests that having visible role models increases girls' interest in STEM careers. We should prioritize junior high school students programs that feature successful women in STEM in Japan. 	K&I	<p>初等中等教育における女子学生の文理選択の健全化を早急に推進すべきである。推進に際しては、以下の内容に留意する。(1)国、大学、学協会、企業、NPO等によるこれまでの取り組みの効果について検証し、活動の意義と効果の最適化を図る。(2)進路選択支援は、特に中学生に対して保護者とともに実施する。(3)高校における文理選択方式での受験対策は早急にその見直しを検討する。(4)これらの活動は女性のみならず男性の積極的参加が必須である。</p>	政府、地方自治体、学協会、大学、企業、NPO、初等中等教育機関、保護者等
<p>各国共通して、Engineering, Computing の分野では女性比率が3.5%～6%と非常に低い数値を示しており、中高生あるいは小学生を対象とした早い段階からの科学セミナーやプログラムが非常に有効 Across countries, the proportion of women in Engineering and Computing fields remains extremely low, ranging from 3.5% to 6%. Science seminars and programs targeting middle and high school students, or even elementary school students, starting at an early stage are highly effective.</p>	各国	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校向けにプログラミング教育をしていくのが重要である。 ・AI技術の基礎や正しい使い方を理解させる教育はこれからの教育に必要。 ・AI研究者の88%は男性（主要23カ国平均、2018）と偏っている。 (https://www.ultralytics.com/ja/blog/women-in-ai-are-breaking-boundaries)。 ・数学ができないとAIが使えないというのは誤り。 ・情報と数学科に行く女子学生が少ないのはロールモデルが少ないからである。 ・サマースクールでは、男女比半々参加していた。中高生に理数系分野を知るきっかけを作るのが大事。 ・企業やNPOも、女子向けのイベントをやっている。個々の活動をうまくネットワークでつなげ周知することが有効。 	I&A	<p>エンジニア、コンピュータ分野の女性比率向上のための取り組みを早急に進めるべきである。推進に際しては、以下の内容に留意する。(1)小中学生を対象とした早い段階からのプログラミング教育。(2)AI技術の基礎や正しい使い方の習得のための教育。(3)男女分け隔てのない当該分野の教育機会の提供。(4)当該分野の女性ロールモデルの提示。</p>	政府、地方自治体、学協会、大学、企業、NPO、初等中等教育機関
中期目標/行動 3-5年	対象ステークホルダー	出席者のコメント	DAKI*	中期目標/行動 3-5年	対象ステークホルダー
<p>ダイバーシティ推進に係る評価手法の提示 ー7項目の提言 (Recommendations for Evaluation Systems) 1. 評価システムは地域や国に固有の状況や条件に配慮したものでなければならない 1. Evaluation systems must take into account the specific circumstances and conditions of each region and country. 5. 評価システムは国の法的枠組、機関、個人の3つのレベルをカバーするものである 5. The evaluation system covers three levels: national legal frameworks, institutions, and individuals.</p>	政府機関、JSPS	<ul style="list-style-type: none"> ・公正化を目指す。公平な評価は女性研究者の増加につながる ・日本は国としても評価システムを策定している。 	K	<p>GS10宣言における7項目の提言に基づき、ダイバーシティ推進に係る評価手法の公正化を進めるべきである。1. 評価システムは地域や国に固有の状況や条件に配慮したものであること。2. 評価システムはすべての性別にもメリットがあり、ジェンダーを含め全ての少数派グループを包括するものであること。3. 評価システムは、科学知識の形成、機関の取組み、人材育成、法令・規約・ポリシー、いずれもカバーできるような、普遍的な戦略に基づいたものであること。4. ジェンダーの内訳の正確なデータは、機関によって収集・適切に解析された</p>	政府、JSPS

課題2	2. 評価システムは女性・男性のいずれにもメリットがあり、ジェンダーを含め全ての少数派グループを包括するものでなければならない 2. The evaluation system must benefit both women and men and be inclusive of all minority groups, including gender.	政府機関、JSPS	・具体例として、女性（男性も）に対し、長期育休、介護、病氣、復帰後に対して、昇進においても公平な評価をされているのか、まだすべての少数派グループを包括していないのではないかとことでIを選択。	I	質の良いデータならびに指標に基づいた評価であり、評価は研究とイノベーション、モニタリングシステムに焦点をあてたものであること。5. 評価システムは国の法的枠組、機関、個人の3つのレベルをカバーするものであること。6. 評価システムは選考、昇進、報酬の明確な基準を、個人と機関の双方で確認するものであること。7. 政府、国の研究費配分機関は、ジェンダー平等をレビュー要件として考慮し、これに関する過去の実績と現在までの推移を科研費等の申請書にも導入すること。
課題3	3. 評価システムは、科学知識の形成、機関の取組み、人材育成、法令・規約・ポリシー、いずれもカバーできるような、普遍的な戦略に基づいていること 3. The evaluation system is based on a universal strategy capable of covering scientific knowledge formation, institutional initiatives, human resource development, and laws, regulations, and policies.	政府機関、大学	・業績評価のみならず、アウトリーチ、社会貢献など、評価システムの多様性をキープする。 ・数値化しにくいものを、公正に評価できるようなシステムの構築。 ・評価は研究分野に依存する。I.F.はわかりやすいが、分野でI.F.自体の評価が異なる。 ・基準は大学でそれぞれよいが、分野に応じて評価し、より多角的に評価すべき。	K	
課題4	4. ジェンダーの内訳の正確なデータが機関によって収集され適切に解析されること、質の良いデータと指標に基づいた評価であること、評価は研究とイノベーション、モニタリングシステムに焦点をあてたものであること	政府機関、地方自治体、大学	・男女比のデータ取得の必要性を理解し、科学的に解析することは重要。	K	
課題5	6. 評価システムは選考、昇進、報酬の明確な基準を、個人と機関の双方で確認すべき 6. The evaluation system should establish clear criteria for selection, promotion, and compensation, confirmed by both individuals and the institution.	政府機関、研究機関、民間企業	・採用時にも多様性に関する認識を確認するようにする。	K	
課題6	7. 政府、国の研究費配分機関は、ジェンダー平等をレビュー要件として考慮し、これに関する過去の実績と現在までの推移を科研費等の申請書にも記載するよう導入すべきである。 7. The government and national research funding agencies should consider gender equality as a review requirement and introduce the practice of requiring applicants to document their past performance and progress to date on this matter in grant applications such as those for the Grant-in-Aid for Scientific Research.	文部科学省、JSPS、JST	・研究助成に関して多様性の評価項目が必要。 ・科研費評価でのジェンダー評価の採用は未達。女性研究者、外国人研究者の支援の為、ダイバーシティを含めて、公正に評価する事が重要である。 ・国立大学法人の大学の運営交付金の配分時における評価項目にダイバーシティ推進指標を採用済み。 ・日本学術会議の提言：社会と学術界におけるジェンダー平等・公正の実現を目指して-2030年に向けた課題-の提言5：日本の学術を一層振興させるために、あらゆる学術分野にジェンダー視点を浸透させるとともに、学術の振興を通して社会のジェンダー平等・公正を実現するべきである。に、「各種の大型研究プロジェクトや科学研究費補助金等の審査基準に、ジェンダー的指標を取り入れるべきである」と再録。 ・育児、介護復帰後の研究助成の申請時の年齢制限の緩和他、さまざまな追加配慮	I	
課題7	STEM 分野における女性の活躍が少ない原因には、女性にとって魅力的な分野ではないという偏見が存在する。これらの回避には、周囲の家族、教員の意識改革に加え、ジェンダーギャップに対する男性と女性の意識の違いを認識することが重要である One reason for the underrepresentation of women in STEM fields is the unconscious bias that these fields are not appealing to women. To overcome this, it is crucial to change the mindset of surrounding family members and educators, as well as to recognize the difference in awareness between men and women regarding the gender gap.	社会全体	・偏見の解消など指摘された課題への改善が不十分である。 ・中高の先生およびこれから先生になる学生に対し、ジェンダー教育、多様性教育を必修とし、理解を促す。 ・大学で、ダイバーシティ教育をカリキュラムに取り入れる。 ・ニューロダイバーシティというコンセプトにもとづき、発達障がいに関する新たな捉え方などの教育も、FD研修として必要。 ・企業の面接で、ダイバーシティに関する知識、考え、取り組みを問われる時代である。	K&A	

課題8	国内でも各機関での取組みに大きな差が見られることは否定できず、各機関の取組み推進を図るとともに、他機関への取組み拡大や波及効果、情報共有が課題。It cannot be denied that significant disparities exist in the efforts undertaken by various institutions within the country. The challenge lies in promoting initiatives within each institution while also expanding efforts to other institutions, fostering spread effects, and sharing information.	政府機関、研究機関	・2018年11月OPENed(全国ダイバーシティネットワーク)が設立。大学や高等専門学校などの全国の取り組みの情報共有・拡大・波及効果が期待される。 ・今後は企業と大学間など、さらなるネットワークの強化が重要。	K	全国ダイバーシティネットワーク (OPENed) などのネットワークを活用し、大学・高等専門学校や企業における取り組みの情報共有を全国規模で進め、機関間の格差是正を進めるべきである。特に女性参画が進まない企業への働きかけが重要である。	国、大学、高等専門学校、企業等
長期目標/行動5-10年		対象ステークホルダー	出席者のコメント	DAKI*	長期目標/行動5-10年	対象ステークホルダー
課題1	ジェンダー平等は持続可能な社会と人々の幸福に不可欠な要素であり、科学、技術及びイノベーションが人々の生活をどれくらい良いものにできるか、その質を左右する。それは、男女間の機会均等に加え、ジェンダーの科学的理解とジェンダーの差違が科学技術の主要因と捉えられ分析されてこそ社会にイノベーションをもたらし得る。-ジェンダーサミット東京宣言：架け橋 (BRIDGE: Better Research and Innovation through Diversity and Gender Equality) 2017 1) Gender equality is an essential determinant of societal sustainability and wellbeing and affects how science, technology and innovation can improve people's lives. It is realized through interventions to create equal opportunities between women and men; and implementing scientific understanding of gender, and of related differences, as important and intersecting factors in creating societal benefits for all. (Tokyo Recommendation) : BRIDGE	社会全体	日本学術会議の2025年10月27日発出の提言：社会と学術界におけるジェンダー平等・公正の実現を目指して-2030年に向けた課題- 提言4 すべての分野の人材育成において、ジェンダー平等・公正を実現するべきである。 具体的には、女子の大学及び大学院進学率の向上、理工学・生命科学分野の女子学生・女性教員比率の向上、人文・社会科学分野も含めた全分野の上位職・意思決定機関における女性比率の向上が必要であり、ジェンダーバイアスへの対応、ポジティブ・アクションの更なる実施、ワークライフ・バランスの取れたハラスメントのない研究環境の整備、契約期間が決まっており、その間に研究成果を出さないと次のポジションに進めない「任期付き競争的環境」において困難を抱える女性への支援等が急務である。	I	GS10宣言BRIDGEや日本学術会議2023年提言に基づき、ジェンダー平等・公平を実現する。具体的には、女子の大学及び大学院進学率、特に理工学・生命科学分野の比率の向上、人文・社会科学分野も含めた全分野の上位職・意思決定機関における女性比率の向上が必要である。さらには、ジェンダーバイアスへの対応、ポジティブ・アクションの更なる実施、ワークライフ・バランスの取れたハラスメントのない研究環境の整備、任期付き女性研究者への対応について、積極的支援が必要である。	社会全体、政府、地方自治体、大学、企業等
課題2	“Gender Equality 2.0(GE2.0)”の提唱 ジェンダー・サミット10 - アジア太平洋は、「ジェンダー平等」の取り組みが、年齢、性別、社会的地位、経済状況、教育、民族、人種、能力など、社会における多様なニーズの源泉も尊重すべきであるとの認識に基づき、ジェンダー平等2.0という新たな概念を提唱する。この提案は、「アジェンダの実施においてジェンダー視点を体系的に主流化することが極めて重要である」という国連の決定を反映したものである。4. The Gender Summit 10 - Asia Pacific proposes a new concept of Gender Equality 2.0 in recognition that “gender equality” actions should also respect related sources of divergent needs in society such as age, sex, social position, economic status, education, ethnicity, race and ability. This proposal reflects the UN decision that “Systematic mainstreaming of gender perspective in the implementation of the Agenda is crucial”.	社会全体		K	GS10で提唱されたジェンダー平等2.0を推進する：アジア太平洋は、ジェンダー平等の取り組みが、年齢、性別、社会的地位、経済状況、教育、民族、人種、能力など、社会における多様なニーズの源泉も尊重すべきであるとの認識に基づき、ジェンダー平等2.0という新たな概念を提唱する。この提案は、「アジェンダの実施においてジェンダー視点を体系的に主流化することが極めて重要である」という国連の決定を反映したものである。	国際社会全体
課題3	多国間におけるSTEM 分野における男女間の雇用の相違は、性差のみならず、機関、文化、社会的要因が原因となることを認識し、そうした制約の下、国際協調を行っていくことが重要である。It is essential to recognize that gender disparities in STEM employment across multiple countries stem not only from gender differences but also from institutional, cultural, and societal factors, and to pursue international cooperation under these constraints.	国際社会	・日本では、結婚・出産で、女性のキャリア継続がむずかしく、また、夫婦で同じ職場に居る事は難しい。 ・地方では良い人材がほしいので、地方に人材を呼び込む為、最近では、夫婦で教員採用されている場合もある。 ・帯同雇用は、女性研究者を増やす、または、少子化対策としても必要である。 ・大学の任期付き雇用が多い。大学から企業への流動性があるとよい。 ・雇用システムを変える必要がある。現在の日本では、女性にとつて育児、出産と仕事との両立は大変。	K	STEM 分野における男女間の雇用の相違は、性差のみならず、機関、文化、社会的要因が原因となることを認識して多国間の国際協調を行っていくことが重要である。日本においては、結婚・出産・育児などのライフイベントとキャリア継続との関係、地方の過疎化、単身赴任、任期付き採用などの固有の社会的問題について意識しつつ、効果的に国際協調を進めるべきである。	国際社会全体
自由討議メモ	・入試女子枠、女性限定公募は検証、フィードバック、発展が必要。					

第一部：グループ討議 11:10-15:00

テーマ2 アジアの視点を重視したジェンダー平等 11:00-14:20

ファシリテーター：渡辺美代子 記録係：中村卓司

第一部

*DAKI：Drop削除, Add追加, Keep維持, Improve改善 から抜粋

GS10からの抜粋項目		当日の議論		新たなロードマップの設定(2025)		
	短期目標/行動1-3年	対象ステークホルダー	出席者のコメント	DAKI*	短期目標/行動1-3年	対象ステークホルダー
課題1	評価システムは地域や国に固有の状況や条件に配慮したものでなければならない。また女性・男性のいずれにもメリットがあり、ジェンダーを含め全ての少数派グループを包括するものでなければならない	文部科学省等政府機関	・日本アカデミアにおける近年の女性限定公募の広がり、短期的視点では当該公募に応募できない男性に相対的不利益を生じさせていると捉える向きもある。中長期的な視点で捉え直し、「女性・男性を含めすべての性別のいずれにもメリット」という方向へ向かう必要がある。 ・強調すべきは公平性である。	I	評価システムは地域や国に固有の状況や条件に配慮したものでなければならない。またジェンダーを含め全ての少数派グループを包括するものでなければならない。日本においては、女性支援策を進めると同時に、中長期的な視点で、女性・男性を含むすべての性別のいずれにもメリットのあるジェンダー平等施策へと向かう必要がある。	文部科学省等政府機関
	中期目標/行動3-5年	対象ステークホルダー	出席者のコメント	DAKI*	中期目標/行動3-5年	対象ステークホルダー
課題1	評価システムは地域や国に固有の状況や条件に配慮したものでなければならない。また女性・男性のいずれにもメリットがあり、ジェンダーを含め全ての少数派グループを包括するものでなければならない	文部科学省等政府機関	・少子化だからできる教育に移行する時期ではないか。多くの子供を対象にした均一の教育から脱却し、一人ひとりを大切に個性を尊重する教育に移行できる可能性のなかで、ジェンダー平等を考えるべきである。	A	日本におけるジェンダー平等に関わる教育は、少子化が進む中、多くの子供を対象にした均一の教育から、一人ひとりの個性を尊重する教育に移行する過程の中で、ジェンダー平等を含めて適切に取り込み、進めるべきである。これは少子化だからできる新たな教育のあり方を検討し、実行することである。	文部科学省等政府機関
課題2	SDGsに掲げるジェンダー平等は、社会における多様性、とりわけ、女性や女子、男性や男子、民族や人種、文化等が果たす意味や役割を社会がどのように認識して定義しているか、その関係性を考慮して進める必要がある。それはジェンダー平等2.0として、産業界を含むすべての関係者にとって自らが取り組む持続的課題のひとつとすべきである。(GS10東京宣言)	産官学関係者、メディア	・女性だけの問題ではないという考え方やさまざまな要因が重なって合っているという認識は広まり始めた。インターセクショナリティの理解も広まってきた。	K	SDGsに掲げるジェンダー平等は、社会における多様性、とりわけ、女性や女子、男性や男子、民族や人種、文化等が果たす意味や役割を社会がどのように認識して定義しているか、その関係性を考慮して進めるべきである。それはジェンダー平等2.0として、産業界を含むすべての関係者にとって自らが取り組む持続的課題のひとつとすべきである。(GS10東京宣言)	産官学関係者、メディア
課題3	地域、環境、文化・歴史的背景によりジェンダーとダイバーシティ推進のための取組みに違いがあるものの、各国間の考え方や取組みを情報共有することは科学とイノベーションの向上には必要不可欠	学協会、日本学術会議	・いろいろな分野の国際学術組織などで情報共有が進みつつある。これらの横断を通すような広い分野での議論を進めるべきである。	K	地域、環境、文化・歴史的背景によりジェンダーとダイバーシティ推進のための取組みに違いがあるものの、各国間の考え方や取組みを情報共有することは科学とイノベーションの向上には必要不可欠であり、これを積極的に進めるべきである。	ファンディングエージェンシー、学協会、日本学術会議
課題4	性別に由来する困難や国の歴史に由来する困難の元で、むしろ困難があるからこそ切り拓かれた道のりの事例の紹介が有効	産官学関係者、メディア	・さまざまな経験をして成功に至る/人生の満足感を得た/新しいモデルを構築した人の紹介が有効	K	性別に由来する困難や国の歴史に由来する困難の元で、むしろ困難があるからこそ切り拓かれた道のりの事例の紹介を積極的に行うべきである。	産官学関係者、メディア
	インドのメトロプロジェクトでは様々な文化的背景の差異を克服するため、現場の安全視覚化装置など、多言語環境でも理解され易い、徹底的かつ合理的な安全対策を導入した	政府機関	・優秀な人材の海外流出が激しくなっている要因と認識できる。流出した人材をいかに国内に取り戻すかは少子高齢化社会にとって火急かつ重要な課題である。	I	様々な文化的背景の人材を社会に取り込むための方策、優秀な人材の海外流出を防ぐための方策、流出した人材を取り戻すための方策について、少子高齢化社会への対策という意味でも火急かつ重要な課題であることを国として認識し、取り組むべきである。	政府
	ミャンマーでは女性の方が勤勉であることから、最近では進学率や教員比率においても女性の方が高くなっている等、現在のミャンマーの女子教育の状況が紹介。特に高等教育において女性の卒業生数が男性を上回った。一方、意思決定における男女平等が今後の課題であることも指摘された	政府機関、学協会	・日本では若干良くなっているものの、意思決定層のジェンダーバランスは深刻な状況にある。	K	進学率や教員比率、高等教育における女性の卒業生数、意思決定層、さらには家庭における家事の負担等におけるジェンダーバランスについて、アジア諸国の情報を集め、その比較をもとに日本の状況把握を客観的に進めるべきである。そのためにも、アジア諸国のネットワーク形成による情報収集・情報共有は極めて重要である。	政府、学協会
	カンボジアでは高等教育を受ける女性の割合が増加し、大学幹部の女性比率は30%を誇るが、一方で家事の負担は女性だけに余儀なくされる等、アジアに共通する課題も多い	政府機関	・アジア内での多様性は大きく、もっと多くの国や地域の事例を集める必要がある。アジア諸国の一員である我が国として各国の事情の理解と対話を進めていくことが重要である。	K		

	アジア諸国のネットワークの事例（伊藤先生の例）など、さまざまな組織を活用して情報を収集・共有する。	学協会、日本学術会議	・上の3の事例は参考になるが、もっと広い情報収集や共有が必要であろう。	A	
課題4	ほとんどの国で低学力層に男子が目立つ、大学進学率でもここ20年女子が男子を大幅に上回るようになっていて、男子の学習時間が平均して短い、男子の学習意欲が女子と比べて平均的に低い事実がある。男子の学力低下はデータでは明らかだが、エビデンスに基づいた分析がまだ不十分であることは明らかであり、特にエスニシティや階級・階層などより細部からの分析が必要。	文部科学省等政府機関	・日本でも起きているため、現実的な問題である。 ・画一的な評価を脱するなど、のびしろをのばす教育が重要。	K	世界的に男子の低学力化（学習時間の短縮や学習意欲の低下）、大学進学率の相対的低下が懸念されている。日本においても同様の問題が生じつつある。これらの問題の証拠となる情報収集並びに分析はまだ不十分であり、民族性や階級・階層、地域性、在学学校などより細部からの分析を進めるべきである。
	大学進学という点で相対的に男子優位の国（韓国、インドネシア、ベトナム、日本など）、対等な国（中国）、女子優位の国（フィリピン、タイ、ニュージーランドなど）がある、また、女子優位の社会としてのマレーシア、モンゴル、フィリピンとタイの4カ国を詳細に分析すると、ジェンダーステレオタイプの問題とともに、親の収入の問題や各国内部の地域格差、ジェンダー以外の要因も大きな影響を与えている可能性が存在することについて分析が行われた	文部科学省等政府機関	・インターセクショナリティの問題と関係している。 ・短期的には「女子枠」の実施もありうるが、中期的（そして長期的）には「多様性枠」といった考え方を展望することが望ましいのではないかと。	K&I	大学進学という点で、相対的に男子優位の国、対等な国、女子優位の国がある。社会における優位性についても同様である。これらの要因について、ジェンダーステレオタイプの問題として取り扱うに留まらず、インターセクショナリティの問題として捉え、分析を進め、公平な社会の構築に活かす必要がある。現在日本で進みつつある大学入学時の「女子枠」を「多様性枠」に広げることについて検討すべきである。
	長期目標/行動5-10年	対象ステークホルダー	出席者のコメント	DAKI*	長期目標/行動5-10年
課題1	一面的な歴史解釈はジェンダー不平等の解決にはつながらず、女性の歴史的主体性を軽視する結果をもたらす、歴史における女性の多様なあり方を明らかにすることを通じて、未来に向けた課題が明らかになる	文部科学省等政府機関、 産官学関係者	・長いスパンで物事を見ることが重要である。 ・時代の変化やその傾向を多様な学問を総合して捉えることが重要である。	K&I	ジェンダー平等問題に関して、一時的かつ一面的な歴史解釈は問題の解決にはつながらず、女性の歴史的主体性を軽視する結果になりかねない。歴史における女性の多様なあり方を多様な学問を総合して捉えることにより、未来に向けた課題を明らかにすべきである。
課題2	人類学の視点から見ると、人類の「家族」は人類特有の長い「子ども期」をケアするために作られた社会的単位であり、血縁という単一の指標にこだわるのではなく、多様な家族のあり方を尊重することこそが、人類の歴史及び生物学的特性に適っている	文部科学省等政府機関			人類学の視点から見ると、「家族」は人類特有の長い「子ども期」をケアするために作られた社会的単位である。血縁という単一の指標にこだわるのではなく、多様な家族のあり方を尊重することが、未来社会にとっては必要になる。
自由討議メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・女性限定公募・学生の女性枠の政策立案から実施へ至るプロセスやその評価をその趣旨を含めて丁寧に説明し情報共有しないと、男性からの不満が高まることが懸念される。 ・ジェンダー平等(Equality)より公平性(Equity)をもっと強調すべきであろう。 ・学術におけるジェンダー平等を市民や社会につなぐには、その「本質」を考え伝える必要がある。教員の限定公募や学生の女性枠を設けることについても、メディアがその本質を伝えているようには思われない。メディアを含めた社会との対話、対話の場が必要である。 				

テーマ3 ジェンダーを要因として考慮する科学技術の進展 11:00-14:20

ファシリテーター：玉田 薫 記録係：須山章子

第一部

*DAKI : Drop削除, Add追加, Keep維持, Improve改善 から抜粋

GS10からの抜粋項目		当日の議論			新たなロードマップの設定(2025)	
	短期目標/行動 1-3年	対象ステークホルダー	出席者のコメント	DAKI*	短期目標/行動 1-3年	対象ステークホルダー
課題1	男女間の機会均等に加え、ジェンダーの科学的理解とジェンダーの差違が科学技術の主要因と捉えられ分析されてこそ社会にイノベーションをもたらし得る。	社会全体	第6次男女共同参画基本計画（内閣府男女共同参画局）に向けた2025年提言にて「提言1：ジェンダー主流化」として再び明記されている。	K	イノベーションの発展のためには、男女間の機会均等に加え、ジェンダーの科学的理解、ジェンダーの差違が科学技術の主要因と捉えられ分析される社会の実現が必要である。	国際社会全体、政府機関等
課題2	ジェンダーに関係するデータベースの構築が必要である。	政府機関	課題1に関連するが、データベースの構築はジェンダー主流化のツールとして具体化を進めるべきである。	K	ジェンダー主流化のツールとして、ジェンダーに関係するデータベースを構築し、広く関係者と共有する必要がある。少なくとも世界標準レベルを早急に実現すべきである。	国際社会全体、内閣府等政府機関
課題3	科学が社会を設計するようになっている現代社会では、科学の社会的責任はますます重要になっている。その責任を果たすためには、科学においても社会においてもジェンダー平等を達成しなければならず、ポジティブ・アクションの適切な導入、達成度の厳格な評価、それにもとづく資金提供・予算管理などの措置が必要である。	政府機関	第6次男女共同参画基本計画（内閣府男女共同参画局）に向けた2025年提言にて「提言4：すべての分野の人材育成においてジェンダー平等・公正を実現する」「提言5：あらゆる学術分野にジェンダー視点を浸透させるとともに、学術の振興を通して社会のジェンダー平等・公正を実現する」として再び明記されている。	K	科学が社会を設計するようになっている現代社会では、科学の社会的責任はますます重要になっている。その責任を果たすためには、科学においても社会においてもジェンダー平等を達成しなければならず、ポジティブ・アクションの適切な導入、達成度の厳格な評価、それにもとづく資金提供・予算管理などの措置が必要である。	政府機関、大学、民間企業等
課題4	ジェンダーは科学技術において重要な要因であるが、科学技術の公益化がなかなか進まない要因の1つは、工学分野でのジェンダーバランスが悪いことである。工学分野のジェンダー平等を推進すると共に、工学においてジェンダーを意識し、要因として埋め込む研究開発の推進が必要である。これと同時に、あらゆる分野で女性の参画機会を増やすことを真剣に考え、実行する必要がある。	政府機関、大学、民間企業	課題3と同様、2025年提言の「提言4」「提言5」に再び明記されているが、大学だけでなく初等中等教育機関及びその教員等もジェンダー平等推進の対象として加えるべきである。	I	ジェンダーは科学技術において重要な要因であるが、科学技術の公益化がなかなか進まない要因の1つは、工学分野でのジェンダーバランスが悪いことである。工学分野のジェンダー平等を推進すると共に、工学においてジェンダーを意識し、要因として埋め込む研究開発の推進が必要である。これと同時に、あらゆる分野で女性の参画機会を増やすことをより真剣に考え、実行する必要がある。	政府機関、大学、民間企業等
課題5	2009年に誕生したresearchmapには、現在約25万人の研究者および約500の組織が登録している。2019年更新版にはAIを使った検索エンジンが搭載され性能が向上する計画。“羽ばたけ日本の女性研究者”データベースとのリンクより、新たな研究ネットワーク構築により男女共同参画の推進が期待される。	researchmapならびに羽ばたけ日本の女性研究者データベース	researchmapは現在国内に十分に普及しているが、羽ばたけ日本の女性研究者データベースはすでに閉鎖されている。男女共同参画推進の意味でresearchmap検索エンジンに性別を入れることについては、議論が必要。	羽ばたけ日本の女性研究者データベースはD research mapはK	researchmapには、現在約25万人の研究者および約500の組織が登録している。これを新たな研究ネットワークの構築、男女共同参画の推進に活用すべきである。また、他のデータベースとの紐づけによって研究者の負荷を低減することも必要である。	research map運営組織、政府機関、大学、民間企業等
課題6	女性は管理職昇進に不安を示しがちであることから、その懸念を取り除くためのプログラムを提供が必要である。	民間企業、研究教育機関等	女性だけではなく男性管理職も対象としたプログラムとして導入すべきである。	I	女性は管理職昇進に不安を示しがちであることから、その懸念を取り除くための女性を対象としたプログラムに加え、男性管理職を対象とするプログラムを作り、普及させるべきである。	民間企業、研究教育機関等
課題7	科学技術の歴史が示す通り、障がい者のニーズは新しいイノベーションを生み出してきた。ダイバーシティこそがアクセシビリティへの多様なニーズを生み出し、イノベーションにつながる。	大学、民間企業	GS10で掲げたGender Equality 2.0は障がい者を含むダイバーシティを想定しているため、そのまま維持。	K	障がい者を含むダイバーシティは、その多様なニーズが新しいイノベーションを生み出す可能性を内包するものとして扱われるべきである。それは社会の責務として位置づけ、合理的配慮や体制整備、人的・時間的資源の投入が必要となることを認識すべきである。	政府、大学、民間企業
課題8	ジェンダード・イノベーションの推進を主導して、科学技術研究ジェンダード・イノベーション・センター（GISTeR）の開設、基礎科学、生体医学と栄養学、工学と技術、都市計画と環境、政策策定などの様々な研究領域で大きな変化を成し遂げている	韓国女性科学技術連合（KOFWST）等	ジェンダード・イノベーションについては日本においても具体的な案を作成し、推進を実行に移すべき（*1）	I & A	ジェンダード・イノベーションは、他国に習い、日本においても具体的な案を作成し、推進を実行に移すべきである。	政府機関ならびに競争的資金配分機関

	中期目標/行動3-5年	対象ステークホルダー	出席者のコメント	DAKI*	中期目標/行動3-5年	対象ステークホルダー
課題1	ジェンダー平等は、ジェンダー平等2.0として、産業界を含むすべての関係者にとって自らが取り組む持続的課題のひとつとすべきである	GS宣言		K	ジェンダー平等は、ジェンダー平等2.0として、産業界を含むすべての関係者にとって自らが取り組む持続的課題のひとつとすべきである。	社会全体、政府機関、大学、民間企業等
課題2	経済産業省にて取りまとめた日本の新たな競争戦略としてのダイバーシティ経営（ダイバーシティ2.0）では、多様な属性の違いを活かし、個々の人材の能力を最大限に引き出すことにより付加価値を生み出し続けるべく全社的かつ継続的に進めている企業のうち、女性の昇進に積極的な1,200社の企業を表彰した。	民間企業	2025年提言の「提言4」「提言5」に通じる好事例。大学を表彰する制度として活用できそうか検討する。対象ステークホルダー：大学等研究機関	I	経済産業省が中心となり多様な属性の違いを活かす戦略として提示した経営方針ダイバーシティ2.0では、個々の人材の能力を最大限に引き出すことにより付加価値を生み出している企業を表彰することで、ダイバーシティ経営を促進している。この表彰制度の大学への適用を検討する。	政府機関、大学等研究機関
課題3	自動車産業ではエンジニアは男性がほとんどだが、購入行動を差別するのは女性であることから、女性労働者を増やし、女性の視点を開発に取り入れた。その結果、顧客満足度も向上した。女性管理職比率も、グローバルな平均値14%には届かないものの、我が国の製造業全体の3%を大きく上回る10.1%となった。	民間企業	2025年提言の「提言4」「提言5」に通じる好事例。マーケティングだけでなく開発にも購入者のジェンダー視点を入れてイノベーションにつなげた事例を収集する。	I	自動車産業の事例同様、マーケティングだけでなく開発にも購入者のジェンダー視点を入れることで、イノベーションにつなげた事例を収集し、公表すべきである。	民間企業
課題4	研究におけるジェンダーの主流化を目指すEC（欧州委員会）が進めている3つの政策の紹介：①キャリアにおけるジェンダー平等の促進 ②意志決定機関でのジェンダーバランスの達成 ③ジェンダーの視点を研究とイノベーションの中身に統合する	欧州委員会	2025年提言の「提言1：ジェンダー主流化」の研究の好事例で、①や②は政策課題としてとりこんでおり、③も検討がなされ始めた。	I	研究におけるジェンダーの主流化を目指すEC（欧州委員会）の3つの政策は日本社会においても重要課題として取り組むべき内容である。①キャリアにおけるジェンダー平等の促進 ②意志決定機関でのジェンダーバランスの達成 ③ジェンダーの視点を研究とイノベーションの中身に統合する。	政府機関、大学、民間企業等
課題5	多額の研究資金を拠出しているHorizon2020においては、ジェンダーの視点が作業プログラムの策定、申請書フォーム、評価、プロジェクト報告書等々、複数の段階で研究のサイクルに取り込まれており、研究者は応募に際してセックスとジェンダー分析が、プロジェクトの内容にいかにか考慮されているかを記載することが求められている	Horizon2020	2025年提言の「提言5」において、「各種の大型研究プロジェクトや科学研究費補助金等の審査基準にジェンダー的視点を取り入れるべきである」との記載があるが、これの具体案を作り、ロードマップに加えるのは良い。	I & A	Horizon2020では、作業プログラムの策定、申請書フォーム、評価、プロジェクト報告書等の複数の段階においてジェンダーの視点が取り込まれており、研究者は応募に際して、プロジェクトの内容にジェンダー分析がいかにか考慮されているかを記載することが求められている。日本においても各種の大型研究プロジェクトや科学研究費補助金等の審査基準にジェンダー的視点を取り入れるための具体案の作成を検討すべきである。	政府機関（競争的資金配分機関）
課題6	科学が包摂的になるための2つの課題：①他の分野の包摂（分野横断的な研究の協働体制の確立）と②女性の包摂。②については、論文執筆者や査読者の女性比率を上げるための支援が不可欠。その一事例が、「アテナ・スワン憲章」を利用しNIH（米国立衛生研究所）の取組み。NIHは同意章で銀貨を受賞した企業にのみ資金提供する	NIH（米国立衛生研究所）	論文執筆者や査読者の女性比率を上げるための支援について検討する。	I & A	科学が女性に対してさらに包摂的になるための施策として、論文執筆者や査読者の女性比率を上げるための支援が必要である。	政府機関、学会、科学系雑誌社
	長期目標/行動5-10年	対象ステークホルダー	出席者のコメント	DAKI*	長期目標/行動5-10年	対象ステークホルダー
課題1	ジェンダー平等は17あるSDGsすべての実践に組み込まれることが必要であり、科学技術イノベーションと共に歩むジェンダー平等は、国連の持続的な開発目標（SDGs）のそれぞれと結びつき、17すべての目標の実現を促す架け橋となる。	社会全体	これまでの延長だけでなく、SDGs設定以降、急速に進展したAI等の新技術も含めて、ジェンダーイノベーションを整理する必要がある。	K	ジェンダー平等は17あるSDGsすべての実践に組み込まれることが必要であり、科学技術イノベーションと共に歩むジェンダー平等は、国連の持続的な開発目標（SDGs）のそれぞれと結びつき、17すべての目標の実現を促す架け橋となる。さらにSDGs設定以降、急速に進展したAI等の新技術も含めて、ジェンダーイノベーションを共通認識となるよう具体的に再定義整理する必要がある。	政府機関（競争的資金配分機関）

課題2		<p>少なくとも現在多くの企業は技術系女子学生採用に積極的だが、女子学生絶対数が圧倒的に不足していることに加え、女子学生が理系企業への就職を希望しないケースもあり、科学技術イノベーション分野におけるジェンダー平等は達成にほど遠い状況にある。この要因について学術的調査によって明らかにしていく一方で、政府は直ちに具体的なアクションを始めるべきである（調査結果を待っている時間的余裕はないというのが経済界の考え）。</p>	A	<p>現在多くの企業は技術系女子学生採用に積極的だが、女子学生絶対数が圧倒的に不足していることに加え、女子学生が理系企業への就職を希望しないケースもあり、科学技術イノベーション分野におけるジェンダー平等は達成にほど遠い状況にある。この要因について学術的調査によって明らかにしていく一方で、政府は直ちに具体的なアクションを始めるべきである。</p>	文部科学省等政府教育機関
*1 引用文献	<p>調査報告書「ジェンダード・イノベーションの潮流 -セックスとジェンダーを考慮した研究・イノベーション-」（国立研究開発法人科学技術振興機構） P9 科学技術・イノベーション政策への着目 https://www.jst.go.jp/crds/report/CRDS-FY2024-RR-05.html 研究やイノベーションにおいてセックスとジェンダーを考慮することは、研究に適切にセックスとジェンダーを取り込むことである。「ジェンダーに関する研究 = 女性研究者の仕事」のような先入観も時折みられるが、実際には、研究者のジェンダーに依存しない。研究・イノベーションにおいてセックスとジェンダーを考慮に入れることは、これまでに見落とされてきたセックス・ジェンダーを科学的資源として活かすことであり、研究者のジェンダーとは関係なく、全ての研究分野において実施されるものである。このことから、ジェンダー平等（男女共同参画）政策について、それ自体を調査の主たる対象には位置付けていない。研究・イノベーションにおいてセックスとジェンダーを考慮することは、まずはジェンダーやセックスを問題にするのに対して、インクルーシブ・イノベーションはこれまで広く排除されてきた人々を包摂することを意図している。また、フェムテックは、女性の問題をテックで解決することや、そのテック製品のことである。今回の調査では、女性に限らず、男性についての調査・分析を含むものであり、女性特有の課題の解決に焦点を当てるフェムテックのみを対象とする政策は含まない。</p>				

第二部：全体討議 15:00-16:30

今後10年間の優先項目と具体的アクション

*テーマ1～3からの抜粋を含んでも良い

追加すべき課題等				
	短期目標/行動1-3年	対象ステークホルダー	具体的アクション	フォローアップ活動
課題1	AIと共生する社会におけるジェンダー的視点について早急に対策をまとめる必要がある。特にAIに関わる教育（AIの研究者、AIの教育、AI存在下での教育などさまざまな視点で）はその具体的対策を急ぐ必要がある。	政府機関、教育機関、社会全体	AIの研究者の養成という意味では広く生徒や学生への数学の教育強化が必要である。	
			AIをユーザーとして扱う分野ではむしろ文理融合を進め多様な分野を学んだ人材を活用するべきである。	
			AIの研究、教育、ユーザーにはいずれも「倫理」が求められており、AIをめぐるこの「倫理」とジェンダーとの関係（交差性）に注意喚起する必要がある。	
	中期目標/行動3-5年	対象ステークホルダー	具体的アクション	フォローアップ活動
課題1	初等中等教育で、学問の本質を教える教育にシフトする時期となった。それには教員の多様性が必要であり、理工系全般、とりわけ理工系のベースとなる数学のような男性比率の高い分野については、多様化を意識的に進める必要がある。教育現場だけでなく、教員養成課程や教科書編纂にも多様な人材の登用が急務である。	政府機関、教育機関、社会全体	教員免許取得制度の見直しが必要である（外国籍や博士研究者の活用等）。	
	長期目標/行動5-10年	対象ステークホルダー	具体的アクション	フォローアップ活動
課題1	ジェンダー公平性を含む広く多様性を認める社会の構築が必要である。	政府機関、教育機関、社会全体	継続的に社会へ働きかけるとともに、時代変化に対応して平等から公平性への転換が求められることに対して意識共有を進める。	

資料 1

Gender Summit フォローアップのためのロードマップ策定ワークショップ

当日スケジュール

開催日時 2025 年 11 月 5 日

開催場所 日本学術会議 6C1 会議室 (6C2 会議室, 6A1 会議室) *ハイブリッド開催

1. プログラム

総合ファシリテーター：渡辺/玉田

10:00-10:30 自己紹介

10:30-11:00 WS の趣旨説明, 他国での取組紹介、本 WS 進め方説明

(Szabó, Hanna 録画資料/補足説明 渡辺)

各部屋に移動 (10 分)

11:10-12:00 第一部：グループに分かれて討議 (1 時間)

昼食 (1 時間)

13:00-14:00 第一部：続き (1 時間)

14:00-14:20 グループのまとめ

全体部屋に集合 (10 分)

14:30-15:00 グループ発表 (30 分)

15:00-16:30 第二部：全体討議 (1 時間 30 分)

16:30-17:00 全体とりまとめ (30 分)

2. ワークショップ班分け

テーマ 1 理工系女子学生・女性研究者を増やす取り組みと活躍促進

代表担当委員 堀利栄

記録係 中野裕美

参加委員 伊藤由佳理

有識者 (参考人) Elizabeth Oda (Women in Science Japan)

テーマ 2 アジアの視点を重視したジェンダー平等

代表担当委員 渡邊美代子

記録係 中村卓司

参加委員 川口慎介 (書面参加) 齋藤毅

有識者（参考人）井野瀬久美恵（人間文化研究機構）

テーマ3 ジェンダーを要因として考慮する科学技術の進展

代表担当委員 玉田 薫

記録係 須山章子

参加委員 関根千津 大場みち子

有識者（第一部連携会員）河野銀子（九州大学教授）

資料 2

Gender Summit フォローアップのためのロードマップ策定ワークショップ

背景と目的

Gender Summit (GS) は、2011 年に欧州連合 (EU) の政策実施機関である欧州委員会の主導により開始され、科学とジェンダーについて議論する国際的なムーブメントを作り出す会議であり、Portia[1]が常に主催者として参加し 2024 年の GS24 まで世界各地で 24 回実施されてきた。

米国では 2013 年に初めて GS3 が開催され、そこでは未来に向けた課題を「北米における多様性と卓越性に関する行動ロードマップ (ロードマップ 1.0)」という形でまとめた。2024 年にはロードマップ 1.0 を更新し、ロードマップ 2.0 に向けて今後 10 年間に必要な行動について協議を行うためのプロジェクト提案が NSF に提出された。これをきっかけとして 世界中で実施されてきた GS をフォローアップし、世界規模のロードマップ 2.0 を作成することが GS 主催者の Portia から提案され、現在世界各地でロードマップ策定のためのワークショップが企画されている。日本に対しても、日本学術会議にこのワークショップの開催が打診された。

日本においては、2017 年に科学技術振興機構 (JST) と日本学術会議の共催で GS10 が実施され、性別の違いを重要な要素として捉え、より良い研究開発のあり方について議論し、その成果を教育、人材育成、基礎研究、そして事業化に積極的かつ実践的に活用することで、より質の高いイノベーションを促進する流れが提案された。今回、イノベーション推進に直接に関わり、一方ジェンダー平等の課題も残されている理工系分野のジェンダー問題を担当する「第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会」にて Portia の提案を受け、GS10 の理工学分野における課題をもとに、その進捗状況を確認し、今後 10 年間で必要な課題をロードマップとして策定する。その結果を世界のロードマップ 2.0 の材料として提供し、世界規模のジェンダーロードマップに日本からの提案を盛り込む。

[1] Portia は、科学分野におけるジェンダー問題への理解を深めることを目的とし、インペリアル・カレッジ・ロンドンの女性科学者グループによって、2001 年にロンドンで設立された非営利団体。2018 年には、ドイツに 100%出資の独立子会社である非営利団体 Portia GmbH が設立された。 <https://portiaweb.org.uk/about.html>

内容

GS10 における「まとめと今後の課題」から課題を抽出し、その中からいくつかのテーマを選択し、そのテーマについてグループ討議を行う。各テーマについて 2017 年からの進捗状況を確認し、今後 10 年間に必要な行動 (誰が、何を、いつまでに) をロードマップにしてまとめる。とりまとめた内容は日本からの提案として Portia に提出し、その後の世界規模ロードマップ策定に貢献する。

ワークショップ実施手順

- ・ 科学的卓越性とイノベーションのための多様性行動ロードマップの見直し、改良、グローバル化に向けたフォーカスグループ・ワークショップ開催方法論 (Elizabeth Pollitzer, 25 May 2025) を修正して用いた

1. ワークショップの形式

- ・ 各ワークショップは、参加型の形式をとり、1日のイベントとする
- ・ 合計15名程度の参加者で実施する
- ・ ファシリテーター（各班1名）が参加者を議論へ誘導する
- ・ 記録者（各班1名）は記録を取り、すべての助言を収集し、ファシリテーターを支援し、共同で報告書を作成する

- ・ 第1部では、参加者に、DAKI法を用いてGS10での関連事項をレビューするよう依頼。DAKIメソッドでは、削除、追加、維持、改善という4つの意思決定が必要。ワークショップでは、この手法をGS10のフォローアップに適用する。例えば、特定の事項が達成された、またはもはや不要とした場合は「削除する」、依然として有効である場合は「維持する」、新しい項目が必要な場合は「追加する」、更新が必要な場合は「改善する」。

- ・ 第2部では、参加者に自由な未来について検討してもらい、ロードマップ2.0に取り入れるべき項目の優先順位等について議論する。

2. 事前ならびに当日の役割分担

- ・ 会場・オンライン接続の準備（事務局）
- ・ 当日の内容を紹介する短いパワーポイント資料の作成（総合ファシリテーター）
- ・ 各班の議題とGS10の内容との関係を事前に整理し、第一部開始時に説明（各班ファシリテーター）
- ・ 当日オンライン上でメモを共有しながら議論内容を記録する（各班記録係）

3. 当日プログラムと運営

総合ファシリテーター：渡辺/玉田

10:00-10:30 自己紹介

- 10:30-11:00 開会：WS の趣旨説明，他国での取組紹介、本 WS 進め方説明
（ Szabó, Hanna 録画資料/補足説明 渡辺）
各部屋に移動（10 分）
- 11:10-12:00 第一部（前半）：各班に分かれて討議（50 分）*有識者からの情報提供
昼食（1 時間）
- 13:00-14:00 第一部（後半）：各班に分かれて継続討議（1 時間）
- 14:00-14:20 各班のまとめ
全体部屋に集合（10 分）
- 14:30-15:00 各班の発表（30 分）
- 15:00-16:30 第二部：全体討議（1 時間 30 分）
- 16:30-17:00 全体とりまとめ（30 分）

3.1 開会

- ・ 総合ファシリテーターは、準備したパワーポイントを用いて、当日の活動内容と方法、ならびに DAKI メソッドを紹介する。
- ・ 参加者からの質疑応答を行う。
- ・ 各班に分かれる

3.2 第一部

（前半）

- ・ 各班ファシリテーターは、GS10 から、最も関連性の高い推奨事項を抽出した表を参加者に提示する。
- ・ 推奨事項は、短期目標（1-3 年）と中期的な目標（3-5 年）あるいは長期的な目標（5-10 年）に項目を分類する。
- ・ 有識者からの情報提供等を受けつつ、自由な意見交換をし、最終的に選択された項目について DAKI メソッドを適用し評価する。
- ・ 議論の際、参加者の意見は、オンライン上で共有し、他の参加者が互いにコメントできるようにする（各班記録係）
- ・ 参加者は、特定された主要アクションの対象ステークホルダーを特定する。

（後半）

- ・ 議論を継続後、第一部後半では、発表できるように各班の意見をまとめる。

3.3 各班の発表

- ・ 班ごとに代表者が議論の内容を他の参加者に説明し、全体での合意形成を目指す。
- ・ 参加者からの質疑応答を行う。

3.4 第二部

- ・ 第二部では、将来を見据え、今後 10 年間の優先項目と具体的アクションについて自由な討議を行う(総合ファシリテーター)。
- ・ 参加者は、それぞれの専門知識と経験に基づき、今後 10 年間で最も重要な分野について項目に抜けがないかなど、班ごとの議論において見落とされている項目がないかを議論する。
- ・ 議論の際、参加者の意見はオンライン上で共有し、他の参加者が互いにコメントできるようにする(各班記録係)
- ・ 参加者は必要に応じて再びグループに分かれ、具体的なアクションについて議論しても良い。この時、参加者は、国や地域の状況を反映したアクションを提案すること。
- ・ 参加者は、特定された主要アクションの対象ステークホルダーを特定する。
- ・ オープンな質疑応答を通して、共通の理解と合意を形成する。
- ・ フォローアップ活動について合意する。

3.5 全体取りまとめ

- ・ 本日の議論内容について総括し、今後の報告書作成に向けた段取りを確認する(総合ファシリテーター)。

参考1：記録用エクセルファイル

テーマ1 理工系女子学生・女性研究者を増やす取り組みと活躍促進 11:00-14:20				
ファシリテーター：XXXXX 記録係：XXXXX				
第一部			*DAKI：削除, 追加, 維持, 改善 から抜粋	
GS10からの抜粋項目			当日の議論	
	短期目標/行動1-3年	対象ステークホルダー	出席者のコメント	DAKI*
課題1				
課題2				
課題3				
	中期目標/行動3-5年	対象ステークホルダー	出席者のコメント	DAKI*
課題1				
課題2				
課題3				
	長期目標/行動5-10年	対象ステークホルダー	出席者のコメント	DAKI*
課題1				
課題2				
課題3				
自由討議メモ				

テーマ2 アジアの視点を重視したジェンダー平等 11:00-14:20

ファシリテーター：XXXXX 記録係：XXXXX

第一部

*DAKI：削除, 追加, 維持, 改善 から抜粋

GS10からの抜粋項目			当日の議論	
	短期目標/行動 1-3年	対象ステークホルダ	出席者のコメント	DAKI*
課題1				
課題2				
課題3				
	中期目標/行動 3-5年	対象ステークホルダ	出席者のコメント	DAKI*
課題1				
課題2				
課題3				
	長期目標/行動 5-10年	対象ステークホルダ	出席者のコメント	DAKI*
課題1				
課題2				
課題3				
自由討議メモ				

テーマ3 ジェンダーを要因として考慮する科学技術の進展 11:00-14:20

ファシリテーター：XXXXX 記録係：XXXXX

第一部

*DAKI：削除, 追加, 維持, 改善 から抜粋

GS10からの抜粋項目		当日の議論		
		対象ステークホルダ	出席者のコメント	DAKI*
課題1				
課題2				
課題3				
中期目標/行動3-5年		対象ステークホルダ	出席者のコメント	DAKI*
課題1				
課題2				
課題3				
長期目標/行動5-10年		対象ステークホルダ	出席者のコメント	DAKI*
課題1				
課題2				
課題3				
自由討議メモ				

第二部：全体討議 15:00-16:30

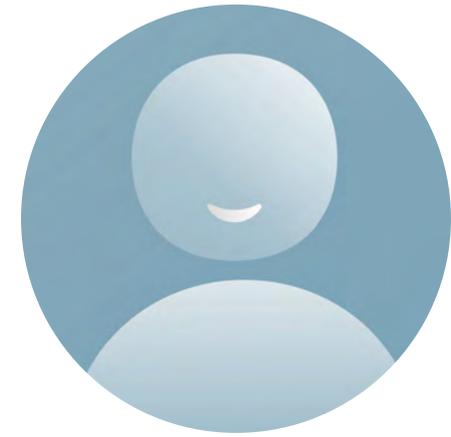
今後10年間の優先項目と具体的アクション

*テーマ1～3からの抜粋を含んでも良い

追加すべき課題等				
	短期目標/行動 1-3年	対象ステークホルダー	具体的アクション	フォローアップ活動
課題1				
課題2				
課題3				
	中期目標/行動 3-5年	対象ステークホルダー	具体的アクション	フォローアップ活動
課題1				
課題2				
課題3				
	長期目標/行動 5-10年	対象ステークホルダー	具体的アクション	フォローアップ活動
課題1				
課題2				
課題3				

全体取りまとめ 16:30-17:00

- ・ 本日の議論内容の総括
- ・ 今後の報告書作成に向けた段取りの確認



Developing gendered recommendations for action on excellence in research and innovation

Global consultation to update and improve
the 2013 GS Roadmap for Action (1.0), and to integrate
views from different parts of the world into a new
global Roadmap for Action 2.0

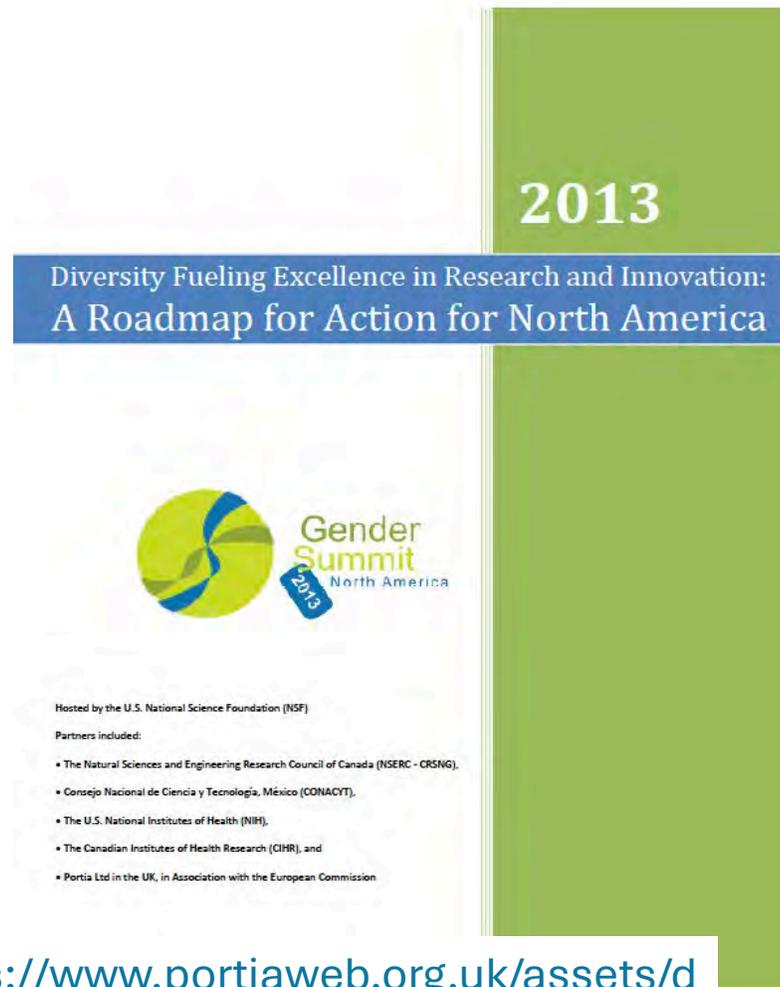
The Gender Summit platform for dialogue was established in 2011 in Europe – it now has regional platforms for Europe, North America, Asia Pacific, Latin America, Africa, and India. Since 2011, there have been 25 2-3 days events



The model of the Roadmap for Action 1.0, adopted in 2013 by the participants of the 3rd Gender Summit in the USA, hosted by the NSF and funders in NA. Evidence-based recommendations in *five core areas*



Recommendations for
Action on



<https://www.portiaweb.org.uk/assets/docs/GS3-Roadmap-july30-2014.pdf>

Central aspects of Roadmap for Action 2013



- *Ensure the **elimination of gender discrimination in STEM employment** practices, career-life balance, funding and support*
- *Include the “**gender dimension**” (as well as **age, race, ethnicity, socioeconomic status, disability**) in research*
- *Include women’s issues and concerns as they relate to **agency practices (e.g., merit review) and decision-making** (being aware that there are different perspectives)*
- *Establish and promote programmes and policies designed to **encourage and sustain women’s participation in STEM** education and employment;*
- *Agree to share resources for addressing gender imbalance and to devise **forward-looking strategies for a more inclusive scientific enterprise***

2013 Key Recommendations for Research Content



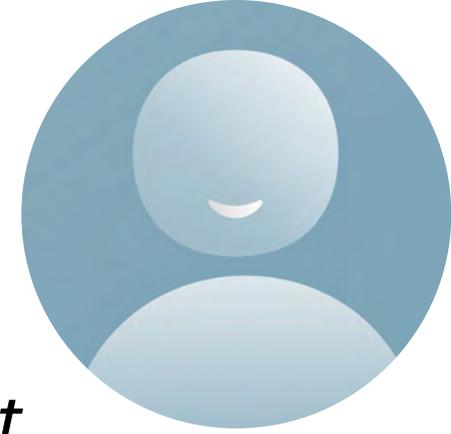
- *Advance scientific knowledge and **eliminate gender bias in knowledge production** and application through including the gender dimension in study design, analysis and reporting; and*
- *Incorporate the **gender dimension (as well as dimensions of intersectionality)** related to race, age, and other relevant factors) in exposure regulations (that is regulations relating to environmental exposure to hazardous materials).*

2013 Key Recommendations for Research Process area



- *Promote **diversity of thought** through adopting common practices and guidelines within and across institutions, establishing checks and balances to identify and reduce bias, and collecting data to monitor outcomes; and*
- *Transform **institutional practices and processes** to achieve better and more innovative research cultures through fostering community and belonging and creating threat-free environments.*

2013 Key Recommendations for Human Capital Development & Advancement



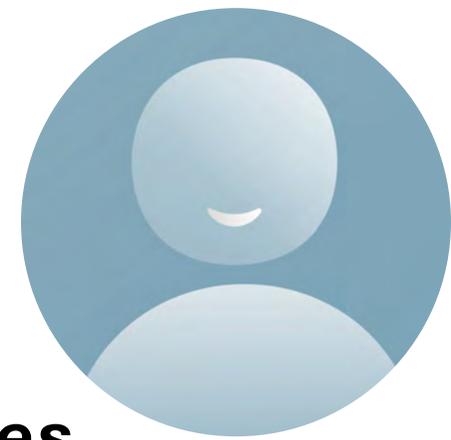
- *Increase the **diversity of people and ideas** at the highest levels of the STEM enterprise by establishing and promoting policies that attract, retain and advance men and women in STEM;*
- *Develop a world-class **STEM talent pool for transformative discoveries**, learning and innovating by providing men and women with the same opportunities to do scientific work and have time for family life; and*
- *Ensure **diverse future leadership** through cultivating and promoting early and mid-career STEM talent.*

Key Recommendations for Policy Context



- *Work toward the **elimination of gender discrimination in STEM employment practices**, funding and support by including gender as part of strategic planning and by focusing on policy enforcement and revision as well as establishing new policies;*
- *Share successful **policies that promote gender equity/equality in STEM**; and*
- *Share specific **mechanisms for implementing successful policies** with fidelity, precision and accuracy.*

2013 Key Recommendations for Multinational Collaboration



- *Develop a **jointly-funded and jointly-administered initiatives** in four major areas of the scientific enterprise: human capital development, scientific research and innovation, institutional transformation, and STEM stewardship;*
- *Make available **data with the diversity perspective from different countries and regions***
- *Promote the **participation of other regions of the world in the Gender Summit.***

Each 2013 key recommendation included **several sub-goals**, which were **to be achieved within 1-3, 3-5 or 5-10 years**, and implemented by **target relevant stakeholders**

- **Short-term Goals/Actions** – 1-3 years
- **Medium-term Goals/Actions** – 3-5 years
- **Long-term Goals/Actions** – 5-10 years

- **Target stakeholders** (organisations expected to take the action):
Researchers, Funding Agencies, Universities, Industry, Other Employers, Journal Editors, Professional Organisations, Regulatory Agencies, Ranking Agencies

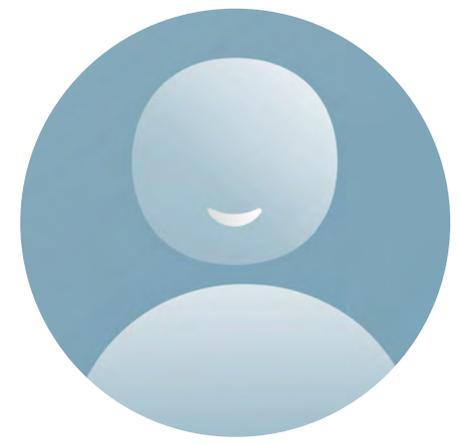


Example: A key 2013 recommendation with its short-term target goals/actions and targeted implementing stakeholders



Advance scientific knowledge and eliminate gender bias in knowledge production and application through including the gender dimension in study design, analysis and reporting.

Short term goals/actions (1-3 years)	Target Stakeholders
Conduct studies that incorporate gender into each step of the scientific process , which will lead to a greater understanding of gender differences and similarities in research areas. As part of this, researchers should report null findings in sex differences.	Researchers
Generate awareness of the rationale for collecting and including sex-disaggregated data in scientific research in order to start shifting the mind set and producing higher quality scientific results.	Journal editors
Integrate gender studies and results of gendered innovations into the STEM curriculum.	Universities
Medium term goals/actions (3-5 years)	Target Stakeholders



The **2025 consultation process** to update the 2013 Roadmap

- Use the same schedule, i.e., **short-term, medium-term** or **long-term**
- **Identify relevant stakeholders** in your country/region
- Select the **core areas of primary interest**, i.e., Policy Context, Research Content, Research Process, Human Capital, and/or Collaboration (it is not required to cover all areas)
- **For each key recommendation** in the selected core area, **examine** the listed short-term, medium-term and long-term **Goals/Actions**
- **Decide** which Action to **drop** (not relevant anymore), which to **add** (new action needed), which to **keep** (still valid and needed), and which to **improve** (e.g., make it more specific)
- Also decide if **additional Key Recommendation** are also required

Example: A Key 2013 Recommendation in Research Content area with a list of the 2013 short-term actions and the proposed changes



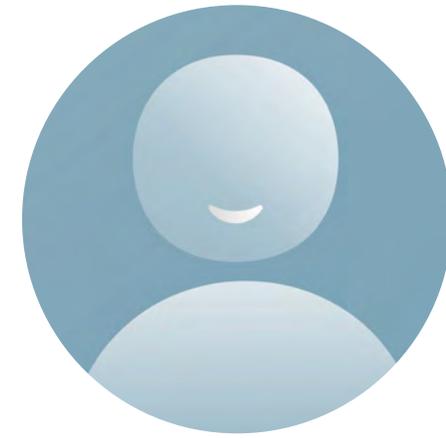
Recommendation from 2013	Short-term Goals/Actions in 2013	Action for 2025	Proposed change & stakeholders
<p>Advance scientific knowledge and eliminate gender bias in knowledge production and application through including the gender dimension in study design, analysis and reporting</p>	<p><i>Conduct studies that incorporate gender into each step of the scientific process</i></p>	<p>IMPROVE</p>	<p>Conduct studies that incorporate intersectional gender analysis into each step of the scientific process <i>(for researchers, funders, universities)</i></p>
	<p><i>Generate awareness of the rationale for collecting and including sex-disaggregated data in scientific research</i></p>	<p>IMPROVE</p>	<p>Develop/promote systematic methods for collecting gender-sensitive data, in specific discipline, e.g., health, safety, sustainability... <i>(for researchers, funders, universities)</i></p>
	<p><i>Integrate gender studies and results of gendered innovations into the STEM curriculum.</i></p>	<p>KEEP</p>	<p>There has been little progress in this area, and the need still exists <i>(for universities)</i></p>
		<p>ADD</p>	<p>Advance methods for intersectional gender analysis <i>(for researchers, funders, universities)</i></p>

Recording and reporting the results of the 2025 consultations



- Record the results of the consultation using **Excel spreadsheet** or as **tables using Word** (as in the Example in Slide 13)
- For each recommendation/action, **provide links to the relevant evidence**, if possible
- Provide a **summary of the progress made** in the country or region covered by the consultation during the last decade
- If additional Key Recommendations have been added, please explain the reasons

2025 Roadmap consultation for Japan



- Japan hosted the 2017 Gender Summit, led by JST and the Science Council of Japan (this was the 10th Summit in the series since 2011)
- The two-day event included a participatory workshop which identified a set of recommendations for action for Japan
- **If necessary, the 2025 consultation for Japan can focus on the recommendations for action proposed in 2017**
- **Use the DAKI method and the reporting format shown in slide 13**
- If possible, provide a **summary of progress** made in Japan since 2017

<参考資料 2>

Gender Summitフォローアップのための
ロードマップ策定ワークショップ
趣旨説明

渡辺 美代子

Gender Summit 発足と趣旨

2011年発足



欧州委員会が中心となり発足
欧州・米国に次いで、アフリカ、
アジアへと世界展開中



Science

Gender

**男女の差を重要な要因と捉え
研究とイノベーションの質の
向上を目指す**

**Gender
Summit**

科学者

企業

政策
決定者

行動

**問題
解決**

Gender Summitの特長

- 男女差を認識し、重要な要因と捉える
 - 科学技術からスタート
 - 多岐にわたる参加者
→ 科学者（文理）、企業、政策決定者、…
- ⇒ 問題提起だけではなく、
解決への具体的な行動を目的
としている

Gender Summitでの事例

男女共同で研究することにより男女差考慮した研究が拡大

男女の性差を考慮して研究開発を進めることにより、全ての人に適した真のイノベーションを創出することが可能になる（Genderd Innovation by Londa Schiebinger）

創薬の研究開発

多く実験でオスの動物を使用
⇒ 女性には効果の低い薬が開発されることがある

幹細胞臓器移植の適合性

臓器移植に男女考慮なし
⇒ 幹細胞に男女差あり、移植も女性同士、男性同士の移植が望ましい

シートベルト設計

男性の体型を前提に開発
⇒ 交通事故において女性の方が重篤な負傷を負う率が高い

骨粗鬆症の診断方法

女性を対象として診断法が確立
⇒ 骨粗鬆症と診断されない男性患者が多く存在

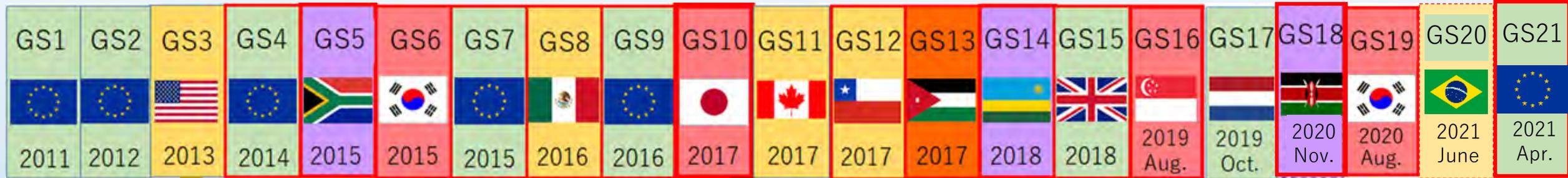
機械翻訳プログラム

人の標準を男性に設定
⇒ 女性の名前も「彼」と翻訳されることが多く「彼女」と出ること少ない

大腸内視鏡検査の確立

男性の体を対象にして設計
⇒ 女性の大腸癌を見落とす事例が多い

Gender Summitの世界展開



Roadmap 1.0
Roadmap for Action on Diversity & Excellence for North America

EU's Horizon 2020
Gender issues addressed in STI & defined as cross-cutting

Seoul Declaration
Importance of gender-based research and innovation, and criteria for effective multi Stakeholder collaboration

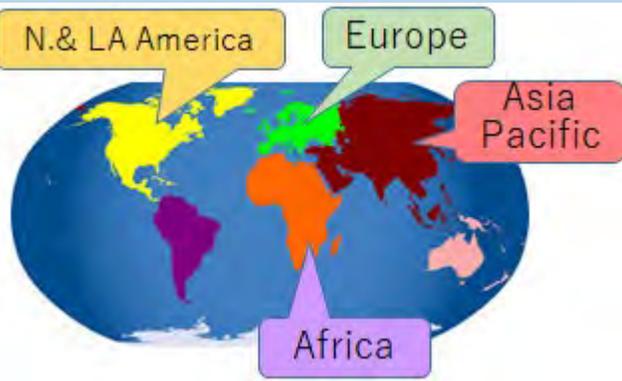
Tokyo Recommendation
To accelerate progress and BRIDGE actions towards achieving ambitions of the SDGs agenda

- 1) Gender differences as impact factor for advancing STI
- 2) GE as success factor for interlinking different SDGs
- 3) GE2.0 as diversity factor for improving social inclusion

The Role of Gender-based Innovations for the UN SDGs
Gender research able to improve delivery of SDG targets



予定



米国NSFの事例

Roadmap1.0に対して DAKIの分類

The diagram illustrates the DAKI framework for Roadmap 1.0, categorized into four types of practices: Drop, Add, Keep, and Improve. Each category includes a list of practices with associated counts and feedback icons.

Category	Practice	Count
Drop	Those lengthy design review...	2
	Let's stop using that...	2
	The daily scrum call feels...	1
Add	We should add a quick daily...	2
	Adding code reviews would...	2
	Let's start doing weekly...	1
Keep	The flexible work hours...	2
	The pair programming...	2
	Our regular retrospectives...	1
Improve	Our code review process...	2
	The onboarding process for...	1

Roadmap1.0に対するDAKI検討結果－米国の例－

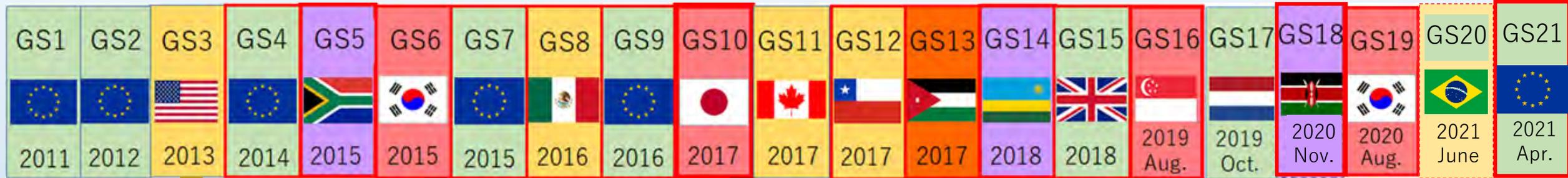
Theme		Cheryl Kristiansen & Rebecca McCullough		
Policy (general statement)	STEM 分野におけるジェンダー平等を促進する成功した政策を共有する。 成功した政策を忠実、正確、正確に実施するための具体的なメカニズムを共有する。	Kelowna, BC Workshop - April 8, 2025		
政策 短期目標／行動 (1～3年)		対象ステークホルダー -	研究内容 - 出席者のコメント	DAKI(Drop,Add, Keep,Improve)
Policy 1	米国公民権法タイトルIX（連邦政府の財政援助を受けている教育プログラムや活動において、性別を理由とする差別を禁止）および米国やその他の国におけるその他の男女平等に関する法律の遵守を強制し、大学が遵守を促進するための組織構造や組織的慣行を確立できるようにする。	連邦政府機関と大学の連携	全州におけるコンプライアンスの徹底	維持Keep (と順守 Protect)
Policy 2	教員、大学院生、ポスドクを対象とした、広く透明性のあるファミリー・フレンドリーな方針を確立し、実施し、普及させるために、研究助成機関と大学との間にパートナーシップを構築する。	資金提供機関と大学が協力し合う	Dimensions? 現在のベストプラクティスを活用し、展開する（車輪両輪の再発明と比較）。	改善Improve (who / when / what)
Policy 3	偏見をなくすため、サーチ、選考、評価委員会における多様性を確保し、そのための研修を行うための機関全体および部門横断的な方針を確立する。	あらゆるセクターの雇用主が協力し合う	Policy 4との連携 インクルージョンの追加 インクルージョン研修、文化的感受性、定着率の向上	改善Improve
Policy 4	査読者の偏見をなくすための研修、査読委員会の多様性の確保、合格率のモニタリングについて、機関全体の方針を定める	資金提供機関	参加と仕事量のバランス サービス業務と期待のバランス	改善Improve

Roadmap1.0に対するDAKI検討結果－米国の例－

政策 中期的目標／行動（3～5年）		対象ステークホルダー	研究内容 - 出席者のコメント	DAKI
Policy 5	男女共同参画に関連する政策に情報を提供するために、国際的な科学フロンティアと国際的なアカデミーに取り組む国際的なネットワークを構築する。	あらゆる分野の資金提供機関と雇用主が協力し合う	Policy 5と6が共通 国連SDGs？ 具体的に、誰が、何を 誰が？ 国連SDGs、国連CSW、国際科学フェア、U15	維持と改善
Policy 6	STEM教育や科学政策に影響を与えるため、公立大学のネットワークや、大学と連邦政府機関や民間慈善財団とのネットワークとの連携を強化する。	資金提供機関、大学、産業界が協力し合う	どのような成果（アウトカム）か？	改善
Policy 7	キャリア・ライフ・バランスの国際的モデルを構築し、共有する。	資金提供機関、大学、産業界、その他の利害関係者が互いに協力し合う。	課題 - 文化的、地理的、民族的、極めて個人的なもの	Policy 2に吸収して削除

本分科会（日本）での取組み
—GS10@東京のフォローアップを中心に—

Gender Summitの世界展開



Roadmap 1.0
Roadmap for Action on Diversity & Excellence for North America

EU's Horizon 2020
Gender issues addressed in STI & defined as cross-cutting

Seoul Declaration
Importance of gender-based research and innovation, and criteria for effective multi Stakeholder collaboration

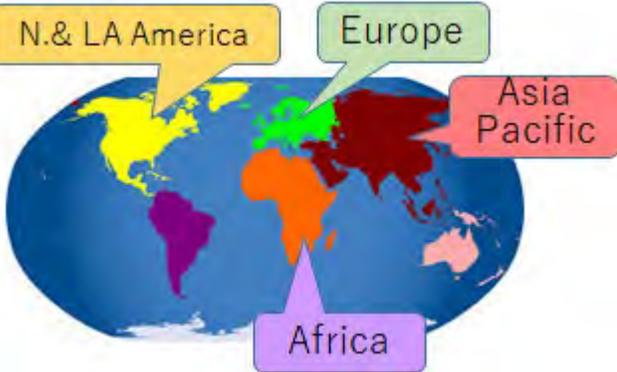
Tokyo Recommendation
To accelerate progress and BRIDGE actions towards achieving ambitions of the SDGs agenda

- 1) Gender differences as impact factor for advancing STI
- 2) GE as success factor for interlinking different SDGs
- 3) GE2.0 as diversity factor for improving social inclusion

The Role of Gender-based Innovations for the UN SDGs
Gender research able to improve delivery of SDG targets



予定



Gender Summit 10



Date: May 25 (Thu.) & 26(Fri.), 2017

Venue: Hitotsubashi Hall, Tokyo, JAPAN

Theme: Better Science and Innovation through Gender, Diversity and Inclusive Engagement

Participants: 585 from 23 countries & areas

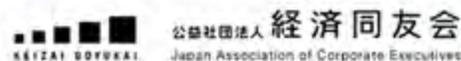
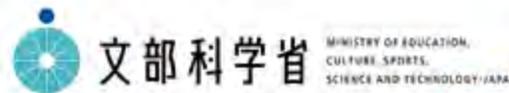


GS10 -Organizers, Associates & Partners- 114

Organizers



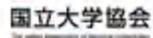
Associates 23



日本私立大学団体連合会
Federation of Japanese Private Colleges and Universities Associations

公立大学協会

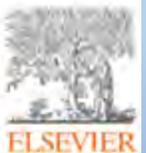
全国知事会
National Governors' Association



男女共同参画学協会連絡会
EPMEWSE

国立研究開発法人協会

Partners 9



GS10 - Sponsors -

Sponsors (at present) 74

Platinum



Gold



Pearl

お茶の水女子大学 慶應義塾大学 中央大学 法政大学 芝浦工業大学 神戸大学 熊本大学 名古屋大学
奈良先端科学技術大学院大学 奈良女子大学 静岡大学 大阪大学 東京大学 東京工業大学
東京農工大学 東京理科大学 津田塾大学 山形大学 山梨大学 横浜国立大学 早稲田大学
日本農芸化学会 日本MOT振興協会女性の活躍舞台づくり委員会 [日物応物男女共同参画連絡会](#)
理化学研究所 産業技術総合研究所 日本化学会 日本生態学会 日本工学アカデミー 日本魚類学会
日本植物生理学会 日本数学会 化学工学会 生物化学学会連合 国立高等専門学校機構
カネカ 鹿島建設 日本生命 パナソニック 資生堂 ソーラボジャパン 内田洋行 LIXIL UL Japan

GS 10 SDGs proposal team members



- Tateo Arimoto (GRIPS, Japan)
- Roseanne Diab (ASSAf, South Africa)
- Ryoichi Fujii (ROIS, Japan)
- Heide Hackmann (ICSU, France)
- Michinari Hamaguchi (JST, Japan)
- Yuko Harayama (CSTI, Japan)
- Botaro Hirosaki (NEC, Japan)
- Kumie Inose (Konan University, Japan)
- Norichika Kanie (Keio University, UNU-IAS, Japan)
- Mitsunobu R. Kano (Okayama University, Japan)
- Seema Kurmar (Johnson & Johnson, USA)
- Elizabeth Pollitzer (Portia, UK)
- Sandra Sharman (UNESCO Office Montevideo, Uruguay)
- Londa Shiebinger (Stanford University, USA)
- Yutaka Shikano (The University of Tokyo, Japan)
- Felycia Edi Soetaredjo (Widya Mandala Surabaya Catholic Univ. Indonesia)
- Lucilla Spini (ICSU, France)
- Kazuo Tase (UN Forum, Japan)
- Kinlay Tshering (Ministry of Agriculture & Forests, Bhutan)
- Yoshiko Tsuji (The University of Tokyo, Japan)
- Miyoko O. Watanabe (JST, Japan)



ジェンダーサミット東京宣言：架け橋（BRIDGE）

-Better Research and Innovation through Diversity and Gender Equality-



1. **ジェンダー平等は持続可能な社会と人々の幸福に不可欠な要素**であり、科学、技術及びイノベーションが人々の生活をどれくらい良いものにできるか、その質を左右する。それは、男女間の機会均等に加え、ジェンダーの科学的理解と**ジェンダーの差違が科学技術の主要因と捉えられ**、分析されてこそ社会にイノベーションをもたらし得る。

ジェンダーと科学技術イノベーションをつなぐ

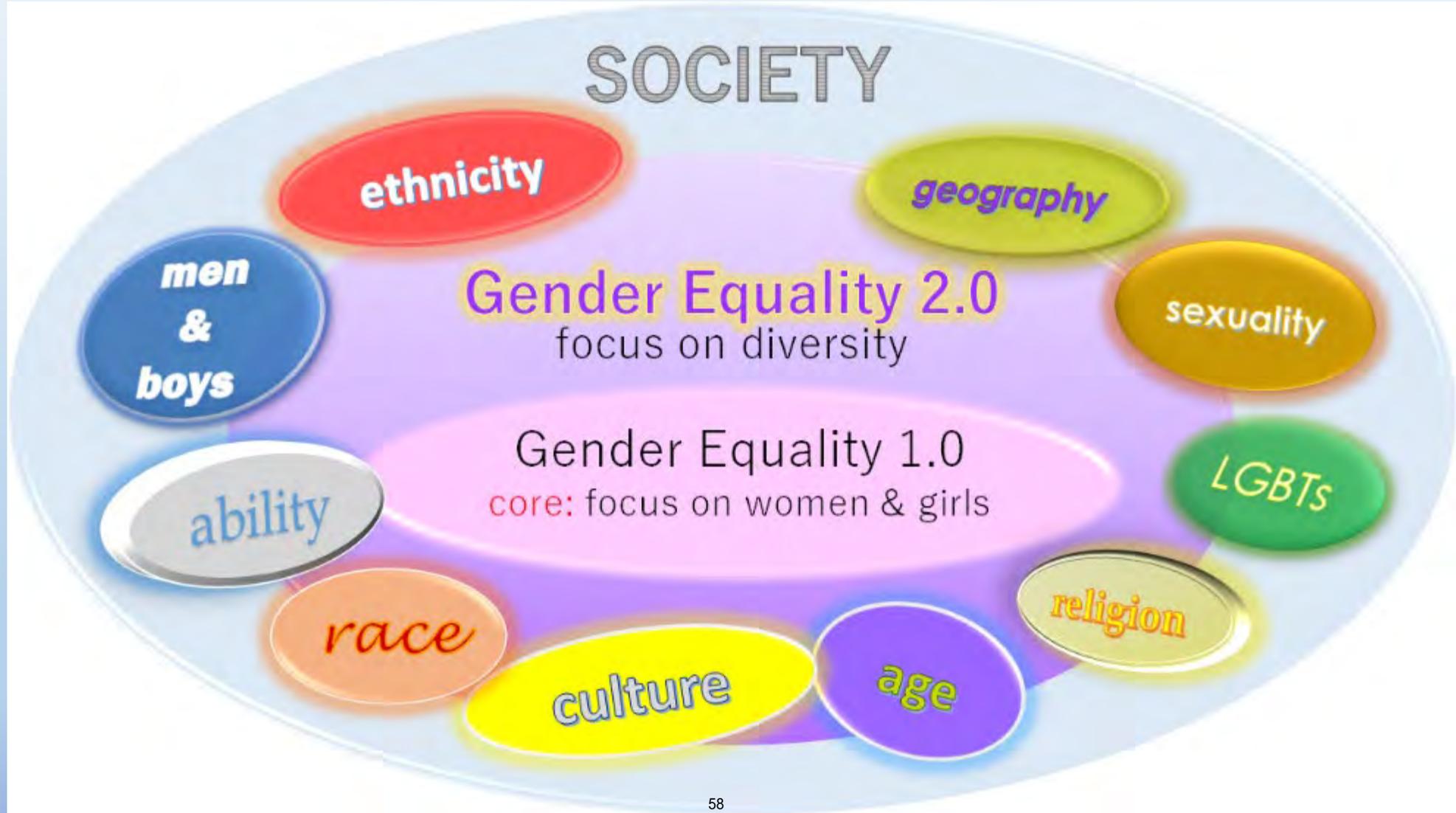
2. ジェンダー平等は17あるSDGsすべての実践に組み込まれることが必要であり、**科学技術イノベーションと共に歩むジェンダー平等は、国連の持続的な開発目標（SDGs）のそれぞれと結びつき、17すべての目標の実現を促す架け橋**となる。

SDGsをつなぐ

3. SDGsに掲げるジェンダー平等は、社会における多様性、とりわけ、**女性や女子、男性や男子、民族や人種、文化等が果たす意味や役割**を社会がどのように認識して定義しているか、その関係性を考慮して進める必要がある。それは**ジェンダー平等2.0として、産業界を含むすべての関係者にとって自らが取り組む持続的課題のひとつ**とすべきである。

すべての人をつなぐ

Gender Equality 2.0 based on Gender Equality 1.0



本日WSのチーム

テーマ1 理工系女子学生・女性研究者を増やす取り組みと活躍促進

- ・日本の工学系でのポジティブアクションの効果、検証、課題
 - ・女性が活躍できる環境づくり、女子高生の大学進学問題、他
- ファシリテーター：堀利栄 記録係：??

参加委員 伊藤由佳理、野尻美保子、中野裕美、千住智信

有識者（参考人） Elizabeth Oda (Women in Science Japan)、田中先生 or 北川先生（東北大学）

テーマ2 アジアの視点を重視したジェンダー平等

- ・欧米主導のジェンダー平等をアジア（日本）視点で考える
- ・ジェンダー平等の再定義、他（男性・男子の問題含む）

ファシリテーター：渡辺美代子 記録係：中村卓司

参加委員：大島まり 斎藤毅

有識者（参考人）：井野瀬久美恵（人間文化研究機構）

テーマ3 ジェンダーを要因として考慮する科学技術の進展

- ・ジェンダードイノベーション、他

ファシリテーター：玉田 薫 記録係：??

参加委員 関根千津 佐々木葉 須山章子 大場みち子

有識者（参考人）河野銀子（九州大学教授）

本日WSのプログラムと運営

総合ファシリテーター：渡辺/玉田

10:00-10:30 自己紹介

10:30-11:00 開会：WSの趣旨説明, 他国での取組紹介、本WS進め方説明
(Elizabeth Pollitzer 録画資料/説明 渡辺)

各部屋に移動 (10分)

11:10-12:00 第一部 (前半)：各班に分かれて討議 (50分) * 有識者からの情報提供
昼食 (1時間)

13:00-14:00 第一部 (後半)：各班に分かれて継続討議 (1時間)

14:00-14:20 各班のまとめ

全体部屋に集合 (10分)

14:30-15:00 各班の発表 (30分)

15:00-16:30 第二部：全体討議 (1時間30分)

16:30-17:00 全体とりまとめ (30分)

Tokyo Recommendations: BRIDGE

1. Gender equality is an essential determinant of societal sustainability and wellbeing and affects how science, technology and innovation can improve people's lives. It is realized through interventions to create equal opportunities between women and men; and implementing **scientific understanding of gender, and of related differences, as important and intersecting factors** in creating societal benefits for all. **Bridge Gender and STI**
2. Gender equality should be integrated into the implementation of all 17 SDGs, because gender equality within science, technology and innovation provides a **BRIDGE through which targets of all 17 SDGs can be connected** to enhance implementation success of the UN SDG agenda. **Bridge SDGs**
3. Gender equality in the context of SDG targets must recognize the influence of human and societal diversities, and, in particular, how science and societies define and **BRIDGE the roles and attitudes to women, girls, men, boys, ethnicity, race, cultures etc. Gender Equality 2.0 should be adopted by all stakeholders, including industry** when planning and implementing actions to achieve sustainability. **Bridge all People**

Final workshop on updating and improving the 2013 Roadmap for Action on Excellence and Diversity in Research and Innovation

23rd February 2026

Location: German Ministry for Research, Technology and Space, Kapelle-Ufer 1, 10117 Berlin

Draft Agenda

9:30 Arrivals (to allow good time for security check)

10:00 Welcome from the Host

10:10 Setting the scene: Martina Schraudner & Elizabeth Pollitzer

10:10 – 10:20 Introductions

10:20 – 11:00 **Reports and recommendations from the workshops in Japan and South Korea:** for Policy, Research Content, Research Process, Human Capital, and Collaboration – **Miyoko Watanabe**, and Heisook Lee

11:00 - 11:15 Break

11:15 – 12:15 **Reports, reflections and recommendations from the workshops in USA, Canada and Mexico**, for Policy, Research Content, Research Process, Human Capital, and Collaboration- Rachele Heller, Catherine Mavriplis, Mina Konigsberg

12:15 – 12:45 Lunch

12:45 – 13:15 **Reports, reflections, and recommendations from the workshop in Germany**, for Policy, Research Content, Research Process, Human Capital, and Collaboration – Martina Schraudner

13:15 – 14:30 Participatory activities **to connect and consolidate the recommendations** into themes and priorities – Clemens Striebing

14:30 – 15:30 **Identifying actors, stakeholders, and good practice/impact** case studies for each category

15:30 – 16:00 Final reflections

Participants (names in italics – awaiting confirmation)

Daniela Homberg, the Ministry

Rachele Heller, George Washington University

Catherine Mavriplis, Ottawa University

Mina Konigsberg, Metropolitan Autonomous University, Mexico

Martina Schraudner, Technical University Berlin

Jonathan Dawes, University of Bath

Curt Rice, Fulbright Norway

Elizabeth Pollitzer, Portia

Eva Reichwein, DFG

Lucio Pisacane, CNR

Miyoko Watanabe (remote connection)

Heisook Lee (remote connection)

Max Voegler, Elsevier

Ylann Schemm, Elsevier Foundation

Ben Pollitzer, Portia

Clemens Striebing, Fraunhofer CeRRI

Gates Foundation

Katerina Svickova, DG RTD

Magdalena Gryszko-Szántó, EIT

Logistics

The recommended **hotel** is Upper West Hotel, Kantstrasse 163-165 Berlin-Charlottenburg (10 min from the Ministry); Fraunhofer can reserve rooms at the rate they use. LET ME KNOW IF YOU WANT TO BE ON THE LIST

Get together dinner on the 22 Feb. - LET ME KNOW IF YOU CAN/WANT TO BE INCLUDE

< 参考資料4 >

Reports and recommendations from the workshops in Japan

Science Council of Japan

Miyoko O. Watanabe
Kaoru Tamada



Workshop on Developing a Roadmap for Follow-up to Gender Summit(GS)

Date: 5 November 2025

Venue: Science Council of Japan(SCJ) Conference Rooms 6C1, 6C2, & 6A1
(Hybrid format)

Organizer: Science Council of Japan

Division of Science & Engineering, Subcommittee on Gender & Diversity

Purpose:

- This workshop was held as part of the Science Council of Japan's efforts to address the relationship between science, technology, & gender as an international issue & to contribute internationally.
- Follow-up to Gender Summit 10 (GS10) held in Japan in 2017.
- Review progress since GS10.
- Develop a new action roadmap looking ahead to the next ten years.
- Contribute from Japan to the formation of an international GS Roadmap 2.0.

Chief Facilitators: M.O. Watanabe / K. Tamada

Workshop Program

10:00–10:30 Self-introductions

10:30–11:00 Opening session:

explanation of the WS objectives, introduction of initiatives in other countries, & overview of the workshop process

(Video presentation by Elizabeth Pollitzer / explanation by Watanabe)

Move to breakout rooms (10 minutes)

11:10–12:00 Part I (first half): Group discussions (50 minutes)

Lunch break (1 hour)

13:00–14:00 Part I (second half): Continued group discussions (1 hour)

14:00–14:20 Group summaries

Move to plenary room (10 minutes)

14:30–15:00 Group presentations (30 minutes)

15:00–16:30 Part II: Plenary discussion (1 hour 30 minutes)

16:30–17:00 Overall synthesis & wrap-up (30 minutes)

WS Themes & Teams

Theme(group) 1: Initiatives to Increase Female Students & Women Researchers in Science & Engineering & to Promote Their Active Participation

- Effects, evaluation, & challenges of affirmative action in engineering fields in Japan
- Creating environments in which women can thrive;
issues related to high school girls' progression to university

Facilitator: Toshie Hori

Participants: Yukari Ito, Mihoko Nojiri, Hiromi Nakano

Expert: Elizabeth Oda (Women in Science Japan)

Theme(group) 2: Gender Equality from Asian Perspectives

- Rethinking Western-led gender equality from Asian (Japanese) perspectives
- Redefining gender equality, including issues related to men & boys

Facilitator: Miyoko O. Watanabe

Participants: Takuji Nakamura, Takeshi Saito

Expert: Kumie Inose (National Institutes for the Humanities)

Theme(group) 3: Advancing Science & Technology by Integrating Gender as a Key Factor

- Gendered innovations

Facilitator: Kaoru Tamada

Participants: Chizu Sekine, Akiko Suyama, Michiko Oba

Expert: Ginko Kono (Professor, Kyushu University)

Activities of this WS

— Focusing on Follow-up to GS10 in Tokyo —

Global Expansion of Gender Summit



Roadmap 1.0
Roadmap for Action on Diversity & Excellence for North America

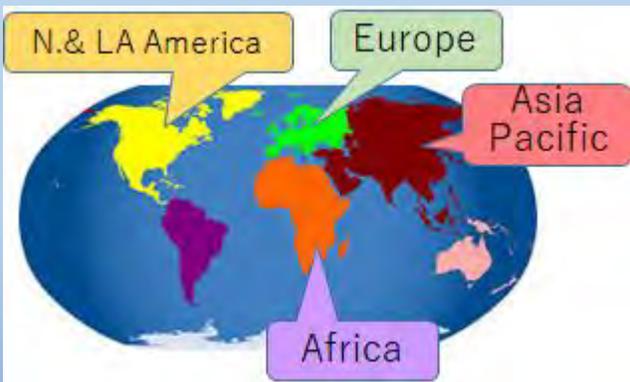
EU's Horizon 2020
Gender issues addressed in STI & defined as cross-cutting

Seoul Declaration
Importance of gender-based research & innovation, & criteria for effective multi Stakeholder collaboration

Tokyo Recommendation
To accelerate progress & BRIDGE actions towards achieving ambitions of the SDGs agenda

- 1) Gender differences as impact factor for advancing STI
- 2) GE as success factor for interlinking different SDGs
- 3) GE2.0 as diversity factor for improving social inclusion

The Role of Gender-based Innovations for the UN SDGs
Gender research able to improve delivery of SDG targets



Tokyo Recommendations: BRIDGE

1. Gender equality is an essential determinant of societal sustainability and wellbeing and affects how science, technology and innovation can improve people's lives. It is realized through interventions to create equal opportunities between women and men; and implementing **scientific understanding of gender, and of related differences, as important and intersecting factors** in creating societal benefits for all.

Bridge Gender and STI

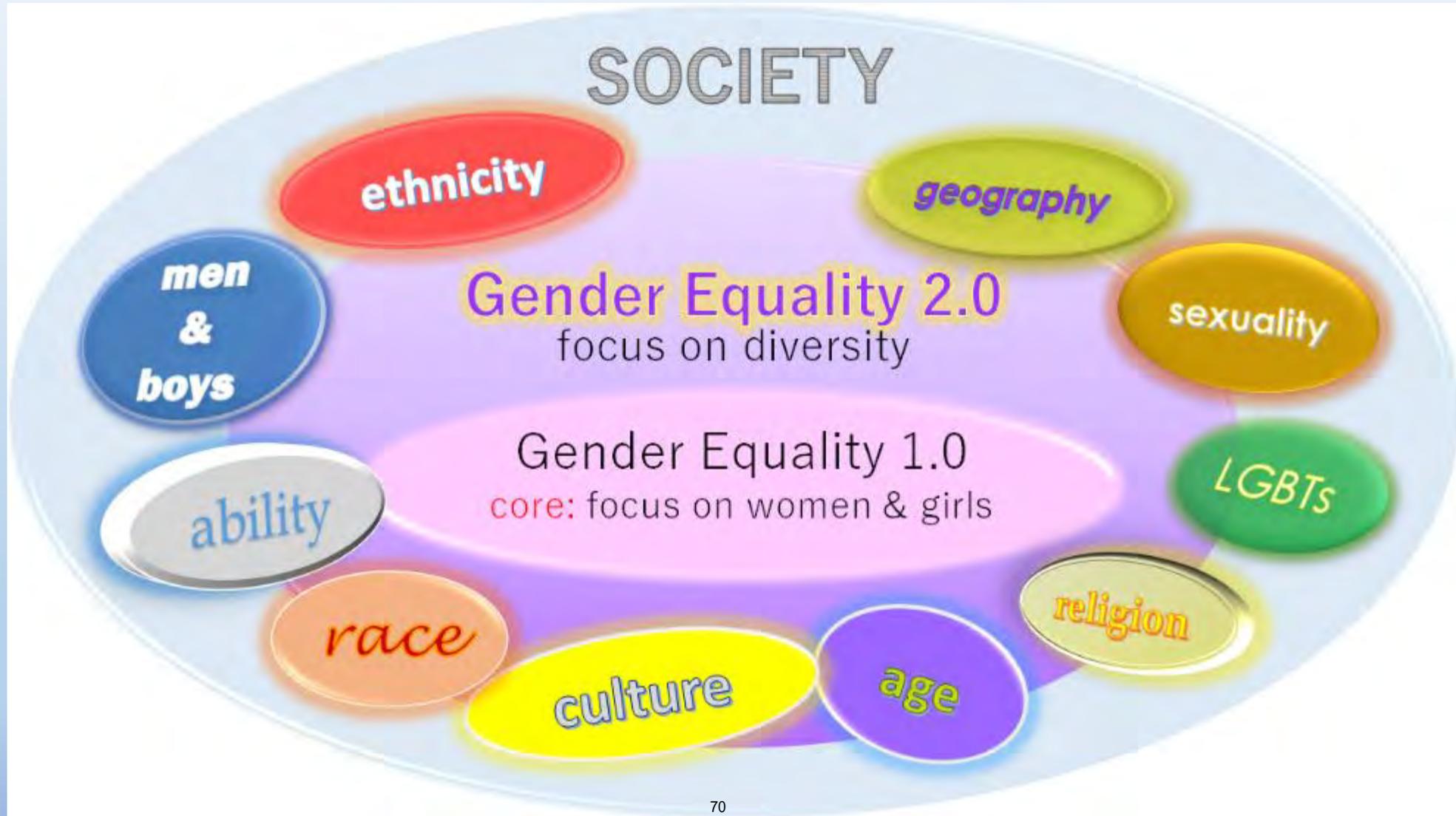
2. Gender equality should be integrated into the implementation of all 17 SDGs, because gender equality within science, technology and innovation provides a **BRIDGE through which targets of all 17 SDGs can be connected** to enhance implementation success of the UN SDG agenda.

Bridge SDGs

3. Gender equality in the context of SDG targets must recognize the influence of human and societal diversities, and, in particular, how science and societies define and **BRIDGE the roles and attitudes to women, girls, men, boys, ethnicity, race, cultures etc. Gender Equality 2.0 should be adopted by all stakeholders, including industry** when planning and implementing actions to achieve sustainability.

Bridge all People

Gender Equality 2.0 based on Gender Equality 1.0



Activities of this WS

— Roadmap looking ahead to the next ten years —

A 10-Year Integrated Roadmap Framework

Group Discussions & Plenary Discussions

Part I: Group Discussions

Theme 1: Initiatives to Increase Female Students & Women Researchers in S&T & to Promote Their Active Participation

Extracted items from GS10			Discussion on the day		New Roadmap (2025)	
Short-term Goals/Actions (1-3 years)	Target stake holders	2 issues	Participants' comments	DAKI*	Short-term Goals/Actions (1-3years)	Target stake holders
Mid-term Goals/Actions (3-5 years)		8 issues			Mid-term Goals/Actions (3-5 years)	
Long-term Goals/Actions (5-10 years)		3 issues			Long-term Goals/Actions (5-10 years)	

Theme 2: Gender Equality from Asian Perspective

Extracted items from GS10			Discussion on the day		New Roadmap (2025)	
Short-term Goals/Actions (1-3 years)	Target stake holders	1 issue	Participants' comments	DAKI*	Short-term Goals/Actions (1-3years)	Target stake holders
Mid-term Goals/Actions (3-5 years)		5 issues			Mid-term Goals/Actions (3-5 years)	
Long-term Goals/Actions (5-10 years)		2 issues			Long-term Goals/Actions (5-10 years)	

Theme 3: Advancing Science & Technology by Integrating Gender as a Key Factor

Extracted items from GS10			Discussion on the day		New Roadmap (2025)	
Short-term Goals/Actions (1-3 years)	Target stake holders	8 issues	Participants' comments	DAKI*	Short-term Goals/Actions (1-3years)	Target stake holders
Mid-term Goals/Actions (3-5 years)		6 issues			Mid-term Goals/Actions (3-5 years)	
Long-term Goals/Actions (5-10 years)		2 issues			Long-term Goals/Actions (5-10 years)	

Part II : Plenary Discussions

Plenary Discussion: Priority Areas and Concrete Actions for the Next Ten Years

Additional Issues to Be Addressed			
Short-term Goals/Actions (1-3 years)	Target stake holders	1 issue	Actions
Mid-term Goals/Actions (3-5 years)		1 issue	Actions
Long-term Goals/Actions (5-10 years)		1 issue	Actions

A 10-Year Integrated Roadmap (2025–2035)

Part I: Group Discussions

Theme 1: Initiatives to Increase Female Students & Researchers in Sci. & Eng., & to Promote Their Active Participation

Extracted items from GS10			Discussion on the day		New Roadmap (2025)	
	Short-term Goals/Actions (1-3 years)	Target stakeholders	Participants' comments	DAKI*	Short-term Goals/Actions (1-3years)	Target stakeholders
Issue 1	Promoting healthy subject choices (science vs. humanities) for female students in secondary education.	National government agencies, local governments, academic societies, and universities.	<p>Various initiatives—such as science summer schools for junior and senior high school girls implemented with the support of academic societies, university-led STEM pathway programs for female students, and JST-funded programs—have been implemented on a continuous basis. However, systematic evaluation is required to assess the actual outcomes of these initiatives.</p> <p>Universities face a dilemma in securing sufficient time and resources to implement support programs.</p> <p>Programs led by companies and NPOs are particularly effective, and corporate role models have a strong positive impact.</p> <p>STEM pathway support initiatives are especially effective when implemented jointly with parents, particularly for junior high school students. Expanding networks among stakeholders is desirable.</p> <p>Male faculty members should also actively participate in events targeting female students.</p> <p>Japan's high school subject-streaming and entrance examination systems may hinder healthy subject choice.</p>	K&I	<p>Healthy subject choices for female students in primary and secondary education should be promoted as a matter of urgency.</p> <p>In implementation, attention should be paid to:</p> <p>(1) evaluating the effectiveness of existing initiatives by governments, universities, academic societies, companies, and NPOs;</p> <p>(2) implementing STEM pathway support jointly with parents, particularly at the junior high school level;</p> <p>(3) reviewing high school subject-streaming and entrance examination systems; and</p> <p>(4) ensuring active participation by men as well as women.</p>	National and local governments, academic societies, universities, companies, NPOs, primary and secondary educational institutions, and parents.
Issue 2	Across countries, the proportion of women in engineering and computing remains extremely low (3.5–6%), indicating the importance of early-stage educational interventions.	All countries.	<p>The importance of programming education for elementary and junior high school students was emphasized, along with the need for foundational AI education.</p> <p>A lack of female role models was identified as a barrier.</p> <p>Summer schools with balanced gender participation were found to be effective.</p> <p>Networking and coordination among initiatives by companies and NPOs were highlighted as important.</p>	I&A	<p>To increase the proportion of women in engineering and computing, the following should be promoted:</p> <p>(1) early-stage education beginning in elementary and junior high school;</p> <p>(2) education on the fundamentals and appropriate use of AI;</p> <p>(3) provision of educational opportunities without gender bias; and</p> <p>(4) presentation and dissemination of female role models.</p>	National and local governments, academic societies, universities, companies, non-profit organizations (NPOs), and primary and secondary educational institutions.

A 10-Year Integrated Roadmap (2025–2035)

Part I: Group Discussions

Theme 2: Gender Equality from Asian Perspectives

	Mid-term Goals/Actions (3-5 years)	Target stakeholders	Participants' comments	DAKI*	Mid-term Goals/Actions (3-5 years)	Target stakeholders
Issue 1	Evaluation systems must take into account conditions and contexts specific to regions and countries, and must provide benefits to both women and men while being inclusive of all minority groups, including gender.	MEXT and other government agencies	<ul style="list-style-type: none"> This may be an opportune time to transition to forms of education made possible by declining birthrates. Within the shift away from uniform education for large numbers of children toward education that values each individual and respects diversity, gender equality should be thoughtfully addressed. 	A	In Japan, education related to gender equality should be advanced by appropriately integrating gender equality into the transition—amid declining birthrates—from uniform education for large numbers of children to education that respects the individuality of each learner. This entails examining and implementing new approaches to education that are made possible precisely because of declining birthrates.	MEXT and other government agencies
Issue 2	Gender equality as articulated in the SDGs must be advanced with due consideration of societal diversity, particularly how society recognizes and defines the meanings and roles played by women and girls, men and boys, as well as ethnicity, race, and culture, and the relationships among them. This should be positioned as Gender Equality 2.0, a sustainable challenge to be addressed by all stakeholders, including industry. (GS10 Tokyo Recommendations)	Industry, government, and academia stakeholders, and the media.	<ul style="list-style-type: none"> The understanding that gender equality is not solely a women's issue, and that multiple factors are interconnected, has begun to spread. Awareness and understanding of intersectionality have also been increasing. 	K	Gender equality as set out in the SDGs should be advanced with careful consideration of societal diversity, particularly how society recognizes and defines the meanings and roles played by women and girls, men and boys, as well as ethnicity, race, and culture, and the relationships among them. This should be positioned as Gender Equality 2.0, a sustainable challenge to be addressed by all stakeholders, including industry. (GS10 Tokyo Recommendations)	Industry, government, and academia stakeholders, and the media.
Issue 3	Although approaches to promoting gender equality and diversity vary depending on regional, environmental, cultural, and historical contexts, sharing perspectives and practices across countries is indispensable for advancing science and innovation.	Government agencies, academic societies, and SCJ.	<ul style="list-style-type: none"> Information sharing is increasingly taking place within international academic organizations across various fields. Broader, cross-cutting discussions that connect these efforts across disciplines should be further advanced. 	K	Although approaches to promoting gender equality and diversity vary depending on regional, environmental, cultural, and historical contexts, sharing perspectives and practices across countries is indispensable for advancing science and innovation, and such efforts should be actively promoted.	Government agencies, academic societies, and SCJ.

A 10-Year Integrated Roadmap (2025–2035)

Part I: Group Discussions

Theme 3: Advancing Science & Technology by Integrating Gender as a Key Factor

	Long-term Goals/Actions (5-10 years)	Target stakeholders	Participants' comments	DAKI*	Long-term Goals/Actions (5-10 years)	Target stakeholders
Issue 1	Gender equality must be embedded in the implementation of all 17 Sustainable Development Goals (SDGs). Gender equality that advances in tandem with science, technology, and innovation is linked to each of the SDGs and serves as a bridge that promotes the achievement of all 17 goals.	Society at large.	It is necessary to systematically organize gendered innovations not merely as an extension of past efforts, but also by incorporating new technologies—such as AI—that have advanced rapidly since the establishment of the SDGs.	K	Gender equality must be embedded in the implementation of all 17 Sustainable Development Goals (SDGs). Gender equality that advances in tandem with science, technology, and innovation is linked to each of the SDGs and serves as a bridge that promotes the achievement of all 17 goals. Furthermore, it is necessary to concretely redefine and systematically organize gendered innovations as a shared understanding, incorporating new technologies such as AI that have advanced rapidly since the establishment of the SDGs.	Government agencies
Issue 2			At present, many companies are at least proactive in recruiting female students in technical fields; however, the absolute number of female students remains overwhelmingly insufficient, and in some cases female students do not aspire to employment in STEM-related companies. As a result, gender equality in the fields of science, technology, and innovation remains far from being achieved. While the underlying factors should be clarified through academic research, the government should also initiate concrete actions immediately, as the business community considers that there is no time to wait for research results.	A	At present, many companies are proactive in recruiting female students in technical fields; however, in addition to the overwhelming shortage of female students in absolute numbers, there are also cases in which female students do not aspire to employment in STEM-related companies. As a result, gender equality in the fields of science, technology, and innovation remains far from being achieved. While the underlying factors should be clarified through academic research, the government should also begin concrete actions immediately.	MEXT and other government agencies

Priority Areas & Concrete Actions for the Next Ten Years

Part II : Plenary Discussion by all members

Additional Issues to Be Addressed			
	Short-term Goals/Actions (1-3 years)	Target stakeholders	Actions
Issue 1	<p>There is an urgent need to consolidate measures addressing gender perspectives in a society that coexists with AI. In particular, concrete responses must be developed without delay for AI-related education—from multiple angles, including training AI researchers, AI education itself, and education in environments where AI is present.</p>	<p>Government agencies, educational institutions, and society at large.</p>	<p>From the perspective of developing AI researchers, it is necessary to strengthen mathematics education broadly for pupils and students.</p>
			<p>In fields where AI is used as a tool by end users, it is preferable to promote the integration of the humanities and sciences and to leverage human resources with backgrounds across diverse disciplines.</p>
			<p>Ethical considerations are required in AI research, AI education, and AI use, and there is a need to raise awareness of the relationship between AI-related ethics and gender, including their intersectionality.</p>

A 10-Year Integrated Roadmap (2025–2035)

Part I: Group Discussions

Theme 1: Increasing Female Students & Researchers in STEM & Promoting Their Active Participation

Key Issues :

- Persistent gender imbalance in STEM fields, particularly in engineering & computing.
- Early educational pathways & university entrance examination systems that constrain healthy subject choice.
- Limited evaluation of existing outreach & support programs
- Insufficient role models & uneven institutional commitment.

Short-term Priorities (1–3 years)

- Promote healthy subject choices for girls in primary & secondary education through evidence-based evaluation of existing programs.
- Strengthen early STEM exposure (especially programming & AI literacy) with parental engagement.
- Actively involve male educators & leaders in initiatives targeting female students.

Mid-term Priorities (3–5 years)

- Establish fair & transparent evaluation systems for diversity promotion that reflect national & institutional contexts.
- Collect & analyze high-quality, gender-disaggregated data across research, education & employment.
- Ensure evaluation systems benefit all genders & minority groups, recognizing diverse career trajectories.

Long-term Priorities (5–10 years)

- Increase women's representation in senior academic & decision-making positions across all disciplines.
- Create sustainable, harassment-free research environments with work–life balance.
- Support women researchers in fixed-term & competitive employment systems.

A 10-Year Integrated Roadmap (2025–2035)

Part I: Group Discussions

Theme 2: Gender Equality from Asian Perspectives

Key Issues :

- Diverse cultural, historical, & institutional contexts across Asia shape gender equality outcomes.
- Tensions between short-term affirmative measures & long-term inclusive frameworks.
- Growing relevance of intersectionality in understanding gender disparities.

Short-term Priorities (1–3 years)

- Ensure evaluation systems are context-sensitive & inclusive of all genders & minority groups.
- Clearly communicate the rationale & objectives of women-focused measures, emphasizing equity rather than exclusion.

Mid-term Priorities (3–5 years)

- Integrate gender equality into broader educational reforms responding to demographic change (e.g., declining birthrates).
- Promote Gender Equality 2.0 as a shared, sustainable responsibility across industry, government, academia & media.
- Strengthen Asian regional networks for data sharing, comparative analysis, & mutual learning.

Long-term Priorities (5–10 years)

- Move beyond one-dimensional historical interpretations by highlighting women’s diverse historical agency through interdisciplinary scholarship.
- Recognize & respect diverse family structures & life courses as foundations for inclusive societies.

A 10-Year Integrated Roadmap (2025–2035)

Part I: Group Discussions

Theme 3: Advancing Science & Technology by Integrating Gender as a Key Factor

Key Issues :

- Gender differences remain insufficiently analyzed as scientific & technological factors.
- Weak integration of gender perspectives into research design, funding, & innovation systems.
- Poor gender balance in engineering limits the societal impact of STI.

Short-term Priorities (1–3 years)

- Establish gender-related databases as concrete tools for gender mainstreaming.
- Promote R&D that explicitly embeds gender as an analytical factor, particularly in engineering.
- Utilize existing platforms (e.g., researchmap) to build inclusive research networks & reduce administrative burden.
- Develop leadership & management programs addressing gendered barriers to promotion.

Mid-term Priorities (3–5 years)

- Position Gender Equality 2.0 as a core principle across all stakeholders.
- Adapt international best practices (e.g., EC Horizon Europe) to national funding & evaluation systems.
- Increase women's participation as authors, reviewers, & leaders in research communities.

Long-term Priorities (5–10 years)

- Embed gender equality across all 17 SDGs, positioning gendered innovations as a bridge accelerating progress toward all goals.
- Redefine Gendered Innovations to incorporate emerging technologies such as AI.
- Take immediate governmental action to address shortages of women in STEM, alongside continued academic research.

A 10-Year Integrated Roadmap (2025–2035)

Part II: Plenary Discussion

Short-term Priorities (1–3 years)

- Develop urgent, coordinated responses to gender perspectives in an AI-integrated society.
- Strengthen mathematics education for future AI researchers while promoting interdisciplinary talent for AI application fields.
- Address AI ethics through an intersectional gender lens across research, education, & use.

Mid-term Priorities (3–5 years)

- Shift primary & secondary education toward teaching the essence of scholarship, supported by diverse teaching staff.
- Reform teacher certification systems to enable participation of foreign nationals & doctoral-level researchers.
- Diversify teacher training & textbook development processes.

Long-term Priorities (5–10 years)

- Build a society that broadly recognizes diversity & gender equity.
- Promote a shared understanding of the shift from formal equality to substantive equity in response to social change.

A 10-Year Integrated Roadmap (2025–2035)

Cross-cutting Principles

1. From Equality to Equity

Policies must address structural disadvantages & unequal starting points, rather than relying solely on formal equality.

2. Intersectionality

Gender must be analyzed in conjunction with other attributes such as ethnicity, socioeconomic status, region, age, and so on.

3. Evidence-based Policy & Evaluation

High-quality, gender-disaggregated data & transparent evaluation systems are essential for accountability & improvement.

4. Gender as a Scientific Resource

Integrating sex & gender analysis enhances research quality & innovation outcomes across all disciplines.

5. Shared Responsibility

Advancing gender equality requires coordinated action by government, academia, industry, media, & civil society.

End